



視点



21

第57回展…寸描

絵画部 運営委員 舘野 弘

第57回一陽展が、この度の大震災を乗り越えて開催されたことは誠に意義深いことと思います。搬入点数も僅かの減少にとどまり、来場者も例年並みであったということは一陽会の存在が高く評価されている証ではないでしょうか。

本年も広い第1室の存在感が際立っていますが、これは私たちがプロの作家集団として、外に向かったアピールの場であるということ象徴している空間であると思います。

30数年前、私が一陽会に出品し始めた頃、現在の重鎮の先生方の作品に衝撃を受けました。先生方は当時安井賞展やコンクール等対外的にも活躍しており、個性的な作品が際立っていました。そしてお互いに切磋琢磨をして、刺激を受け合っていると感じました。その先生方が現在変わらず密度の高い作品を創り、一陽会を牽引し続けていることは驚異です。同時に、次に続く世代の自分の作品の弱さを感じるばかりです。今の若い人たちは私の作品に何かを感じてくれているのだろうか考えると、情けなさでいっぱいになります。

公衆展の衰退が言われている今、どのように活性化を図るか、どこの会でも大問題であると思います。学生の出品料を無料にする、賞金の額を上げる等、色々なアイデアが委員会の中で話し合われています。また、評論家賞を設けたことは大変刺激になっています。しかし結局、会に属している私たちが良い絵を描くしか解決法は無いと鈴木副代表がおっしゃった通り、私たちが切磋琢磨をして、作品の質を上げることに尽きるのだと思います。

会場の作品を全体的に見てみるとそれぞれの世界

が感じられるのですが、一点一点見ると弱さが目立つ作品があります。空間の認識が弱いのではないのでしょうか。物と空間は同じ密度であり、同等に意識すべきだと思います。また、作品の中に曖昧な部分があるとまずそこが目についてしまいます。作品に曖昧さを残さない、全ての部分に自分の強い意志を持たせることが必要だと思います。

前回の受賞者の中には伸び悩んでいるように思える作品があります。賞は次への期待を込めてつけられるものであり、受賞に満足せず次の作品は全力で取り組む気概が必要ではないでしょうか。そのような中で、受賞をステップに飛躍されている作家もいます。絵画の墨川廣徳さんの作品が素晴らしい展開を見せています。以前から個性的な作品だと感じていましたが、テーマが絞られていないような気がしていました。じっくりと自分と向き合い、取り組んでこられた成果ではないでしょうか。松村一夫さんの独特な世界は大変興味深く見させて頂いています。前回の会報で受賞者の言葉を読ませて頂き、やはり独自の世界を持った人なのだと励みになりました。南部 聡さんも強いものを持っていると感じます。展開が楽しみです。小松正司さんは初出品の質感のある風景が印象的でしたが、独自の世界へ展開を見せてくれました。全員の作品が一陽会の掲げている「描くことに拘る」ということをまさに深く実践している作品であると感じます。真摯に自分と向き合い、何をどう描くかを真剣に取り組む姿勢が作品に現れるということを感じます。

最後に近年、頼に感じることは退会者の多さです。それぞれの理由があるのですが、有望な作家がいなくなることは一陽会にとって、大きな損失です。一陽会は作品本意の会であると思います。お互い、真摯な気持ちで取り組んでいこうではありませんか。



彫刻部57回展を振り返る

彫刻部 運営委員 小林 一夫

鈴木信太郎、野間仁根、高岡徳太郎が二科会脱退声明を発表し、一陽会を設立した頃の熱い情景をイメージしながら50年誌「一陽会創立」章を久しぶりに読んだ。彼らの脱退が東郷青児をはじめ二科会全体におおきな衝撃を与えた様子がこと細かく記載されている。彫刻部では、植木力、浅野宇府が新しい彫刻概念に燃え一陽会設立に情熱を傾け、今日の礎を築いた。当時は美術団体からエネルギーが生まれ、作家同士が切磋琢磨することが大きなムーブメントを生み、今日の美術界の源になって来たことを改めて考えながら、先細りして行く昨今の公募展離れを憂う。かつて巨額の富を築いてきた大企業が或いは美術館が世界の名画を買いあさり、若い作家を育てるための術を置き去りにし、日本の美術の発展に寄与することをおざなりにしてきた。いわゆる日本の美術は、時代を背景として経済の発展の陰に隠れながら成長してきたのである。たとえば今の中国に少し視点に向けてみると、「隠れながら」という表現が的を得ている。少なくとも日本の高度成長期に経済と美術と一緒に歩んで来てはいないのである。未だに印象派を中心とした美術展が開催されている事にも意識のズレと憂いを感じる。

一部雑誌がリードした現代美術が袋小路に陥り、サブカルチャーが台頭し、バブル以後の閉塞状態が続く中で、公募展が優秀な作家を取り込み、或いは美大出身の若いエネルギーを吸収し、成長していくことは所詮無理な話であろうか。一陽会が時の流れの中でこれからどうなっていくかは誰にもわからないし、公募展どうしが競い合って生き延びて行けるとも思っていない。しかし、少なからず彫刻出品者の中にも毎年若い息吹を感じるようになってきたことは喜ばしいことである。今回も若手の出品者の中にエネルギーが目を引いた。彼らが彫刻を制作する環境を選択し、今後大きく成長して行くことを切望する。

毎回図録に掲載されている一陽会創立当時の理念「一陽会は清新にして～前人未踏の新分野確立に努力するものである」、という言葉に咀嚼し、創立当時の先輩の情熱を現在の状況の中で、我々が一陽会の作家として、今何が出来るか論じながら、真剣に立ち向かわなければならないと思っている。

国立新美術館に移って5年経った。移行時の

様々な熱い議論が彷彿とされる。議論の焦点は展示室の確保であり、かねてよりの悲願でもあったが、狭いながらも実現できたことは彫刻部の存在とイメージを大きく変えたように思う。年を重ねるごとに作品の質と醸し出す部屋の雰囲気向上している。照明を当てることで作品が引き立ち、ゆったりとした空間の取り方もうまくいっている。彫刻は空間の芸術であり、どんなに優れた作品でも見せ方が悪いとすべて失敗であるが、単なる作品の羅列にならず、彫刻室の作品は一点一点が生きているのである。旧会場の展示を思い起こしても、比べようもないほどの進化である。今後も展示室の作品の向上と作家のエネルギーが鑑賞者の目を奪うようになることが、今後の一陽会彫刻部のカラー作りに繋がると思うのである。

さて、野外展示にこだわってきた一人として、彫刻部の魅力作りとしての野外展示の充実を上げたい。野外への出品者が増えてくれることを願ってやまない。亡くなった彫刻部の顔であった高嶋さんが生前に、「室内出品者も野外に挑戦することが勉強にもなるし、時には自由な空間の中で個展をするぐらいに作品を並べてみてはどうか」と言って野外展示のおもしろさと、出品を促していたことを思い出す。野外に耐える作品とするためには、ある程度の大きさが必要であり、時間もかかるが、室内にこだわらず大いに野外に挑戦してほしい。

年が明けて「一陽来復」という言葉を新聞メディア等でたびたび目にするようになった。国民全体の大震災からの復興を願うという言葉であるが、一陽会の語源でもあることに大いに注目したい。今年こそ、日本が平和であり、さらに一陽会が進化した姿を見せられるよう一人一人が制作に勤しむことができる1年であってほしい。



ギャラリートークに参加して

絵画部 委員 杉山 司

私が一陽会に初めて出品したのは、第15回展でした。その時代はギャラリートークなどは無く、先輩の先生を見つけては今後の作品展開について個人的にご指導をうけるというやり方でした。それでも、いざ作品の制作に取り掛かると具体的にどうすれば

良いのか考えあぐねてしまう事がしばしばでした。
 ギャラリートークという形式が持ち込まれて、より広い意見交換ができるようになったことは、幸いです。

新しい作品に取り組むには、いろいろと知識を吸収し、制作過程で考えをシンプルにすることが必要になります。先輩や仲間からいただいた心に残る言葉は、その意味で、今でも大切にしています。

前回第54回展のギャラリートークは2階展示室で行われました。参加者は一般出品者の方が多数でしたが、鈴木委員の豊富な経験に基づく巧みな司会進行で、発言が次々に引き出され、作家の抱えている課題とか今後の展開など、参加者に共通する話題が熱心に話し合われました。お互いの努力と熱意を会話を通して感じながら、作品の良い部分（内面も含む）をクローズアップすれば、新しい展開の作品が出来るという思いを深くしました。また、今後の展望に期待出来る作品も数多くありました。

以上が第54回展2階展示室の感想です。

以下に今回、第57回展の感想を述べます。

まず、1階の会場全体から受けた印象を。

第1室の陳列は、広いスペースに他の公募展には見られない一陽会独自の世界観と技法を尽くした大作が特徴的な空間を作り、その中で個々の作品が主張し合い、緊張感を醸し出しています。

第2室から（彫刻を含め）第6室までは、鑑賞しやすい陳列になっており、鑑賞者と作品との会話が自然にできる場になっているように思いました。

今回は1階のギャラリートーク担当でした。メンバーは、沢、高岡、萩中の各委員先生方と杉山の4人です。沢委員に司会進行役をお願いしました。

1階作品についてはまず、参加した作者のほうから、作品の理念、世界観、表現方法などを語ってもらうことから進めて行きました。作品を通しての会話の中から、何をどう描くかという作者の意図が伝わってきて、熱のこもった議論になりました。作者との対話からは、得るものが多々ありました。

これからも、表現の本質を大切に、大いに作品上で自己主張をし合いたいと思います。

1階の作品の点数は2階に比べて少ないのですが、初めて回った時は意外に時間が掛り、最終的には時間不足になったほどです。各作品の問いかけてくる内容が深かったのだと思います。



なお、沢委員には、各作品に対する独自で多様な角度からの切り込みにより、活発な発言を引き出す名進行役、ご苦労さまでした。

gallery talk

絵画部 委員 やまぐちかずお

今回、原稿の依頼を受け、ふと自分の作品について振り返る時間を頂いたような気がします。

私が奨励賞を初受賞したのは1976年、第22回展です。それから相当古い話になりますが、当時の美術雑誌に詩人S氏が私の作品について評して頂いた文面の中で「…描きこまれない空間からリアルに浮かび上がってくる。」この一言に自信を得たのか、それ以来、画面には多くのものを描かず必要最小限にとどめ、メッセージ性を強く打ち出そうと思いついて制作を続けて参りましたが、いつしかメッセージ性を重視する余り、画面に描くものが徐々に増えてしまいました。ある時、私の作品を見た人から電話を頂きましたが、その内容は私が絵を通して発したメッセージとは全く異なる言葉を聞く事となりました。その時、痛感した事は絵（作品）は発表した段階から一人歩きを始めるという事でした。観る人はそれぞれの感覚で作品からのメッセージを受け取るという事が解り、作家のメッセージと観る側が受け取るメッセージが異なる事を意識しながら描いています。

当日の朝、前年のギャラリートークを拝見させて頂いた記憶の中から何名かの作家の作品が頭をよぎり、今年はどう成長して来たのか、どんなメッセージを送ってきたのか、そんな事を意識しながら心楽しみに会場を巡ってみました。

今回、2階の会場を担う事となりました。この階は会友、一般出品者の人達が大半を占めているために作品も多種多様で、スーパーリアリズム的な作品から抽象的な作品まであり、その上、その作家を囲む風土、環境あるいは年代の違いや作品からのメッセージをも加味して見なければならぬという強いプレッシャーを最初から感じましたが、幸い館野弘、土嶋敏男、泉谷淑夫、末田光一各先生らと一緒に担当する事でかなりの安堵感を覚えました。

今回、特に目についたのは東日本大震災を扱った作品が多く見受けられたのも第57回展の特徴の一つと感じられ、メッセージ性の強い作品が多かったのはとても見応えのある会場となっていました。

ギャラリートークに参加する人達は皆、自分の作

品のレベルアップを計りたい、今の作品からももう一歩前に踏み出したい、あるいは制作上の悩みや疑問点、またその解決への方向性を見出したいという人達で会場はひしめき合い、熱の籠もったトークとなりました。また初出品の人も何名かおり、彼らが求める質問に対する確かな言葉で的確に答えられたのか、時として難しい言葉も必要なのかも知れないが、なるべく優しく解りやすい言葉で、より解りやすく語る事の大切さを感じました。また作家が自分の作品について語る言葉を大切に、もし自分だったらどう描くか、そんな事も想像しながら作品に触れるように心構えをしたつもりです。また自分自身が描かない水彩画に対しての理解もせねばならず、構図や形、空間の扱い方、作品の中の空気を読み取る事など与えられたものは大きく、難しかったような気がします。そして本当に理解していただけたのか、その不安感は今でも心の中に残っています。またその反面、すでに作品を自分のものとしている作家もいました。これから彼らの作品がどのように変貌していくのか、それは今後の一つの楽しみであります。

2時間強の限られた時間の中でのギャラリートークでしたが、多くの人の作品を観て語る事は作家側も講師側も十分に語り合う事はなかなか難しく、なるべく作品の良い所、伸ばしたい所を話の中心に心掛けたつもりでした。作家達の熱の籠もった語りが私自身このギャラリートークの大切さを今まで以上に強く感じ、その結果多くの人達の作品が心に残りました。今年の展覧会でもこの作家達の作品に注目したいと思っています。

翌日、会場内でギャラリートークに参加した何人かの人達に声を掛けられ、彼等の作品と対峙し、ゆっくりと話ができた事もギャラリートークに携わった喜びにも似たものを感じとる事もできました。



随想…ギャラリートーク

絵画部 委員 末田光一

第57回一陽展初日午後、会場2階展示室の絵画部ギャラリートークは館野弘、塩川慧子、泉谷淑夫、土嶋敏男、やまぐちかずお、末田の6名のガイド役の講師陣と多くの出品作家の参加を得て行われました。館野、塩川両運営委員の絶妙なナビゲートに助

けられ、7室を手始めに各展示室を回りながら作家の皆さんとの対話形式のトークが展開されました。

私にとっては3年振り2度目の参加でしたが、その前回にも増して作家の皆さんのこの機会を逃すまいとの真剣な眼差しと、積極的且つ真摯な姿勢が言葉の端々から伝わってきて、瞬く間に予定の2時間が過ぎ去ってしまった感がありました。

今回、妙に印象に残ったことがあります。それは率直な不安として、自分の作品はそもそも一陽会に合っているのだろうかとの言葉が複数の作家の皆さんから聞かれたことでした。

この時、ふと今は昔のことが脳裏によぎったのを覚えています。私の一陽展初入選は1975年の21回展です。実は、それまでどの公募展に応募したら良いのか決めかねていました。自分の作品がどの会で受け入れられるのか見極めが出来ずにいたのです。そのような中、偶然にも前年、旧都立美術館における最後の一陽展会場で当時会員の恩師と再会。そこで発表の場として強く誘われたのをきっかけに、もう迷わず翌年応募。それから既に36年が経過してしまいました。思えば、時の流れとは早いものです。

一陽会では厳しき師、良き先輩達に恵まれ、刺激を受けながら育ててもらいました。確かに、応募を決める際はエア・ブラッシュによる表現手法にその可能性を見出そうとしていましたので、「合う」「合わない」を意識したと記憶していますが、一旦出品を開始した後においてそのようなことを考えたことはありませんでした。と言うよりは、考える余裕もありませんでした。初入選当時森秀雄先生からは「年間に100号を10点はかきなさい」と教えを受ければ尚更です。もっとも、力不足でそれが達成されたことはついぞありませんでしたが…

今となっては後の祭りですが、そのことを反省するにつけ、誠に貴重な示唆であったと改めて気付く思いです。「量の蓄積は質の転化をもたらす」と言われますが、先回りして一陽会に合う（と言われる）作品であるか否かに心を配ることよりはむしろ、まず自己の表現したい事柄について明確にし、その独自性を実現すべく実際に制作が押し進められてこそ、そこに自ずと見えてくるものもあり、本当に実りある成果が得られるのではないのでしょうか。

絵を描くこととは、孤独な作業の連続であると思います。制作してどうして良いか分からなくなってしまっても度々でした。以前はギャラリートークがなく、一陽展初日の会場であくまでも個人的な形でしたが、改めて自分の作品と接する中で、

普段近寄りたがたい先生方から誉め言葉ではなく忌憚のないご批評を頂くことが、若い時分の私にとって1年の内で最高の勉強の場になっていました。時にはそれぞれの先生から全く逆の指摘を受け、まるで往復ビンタを食らったような思いにさせられたことも良くありましたが、時を経て分かり、納得したことが多くありました。このような実際の経験を通して、実は自分の目に見えるものが全てではないことに気が付き、真に大切な物はなかなか見えてこないものであることをつくづくこれまで痛感させられてきました。むしろ、人間は自分が見たいものしか見えないのかも知れません。もしそうであるならば、周りの人の率直な指摘こそ重要と言えましょう。

これまでこのような当時は思い起こすことはあまりありませんでした。しかし、今振り返ってみれば妙に明るく映ってきて実に不思議です。

会場で作品を介して多くの作家の皆さんと複数の講師陣が実際に対話しながら思いを分かち合えたことは、何にも替えがたいことですし、双方にとって大変意味のある貴重な時間を共有できたことを意味すると思います。そして、何よりもまず、作家の皆さんとの対話を通して自分を見つめ直し貴重な機会を与えていただき、密かに感謝しています。

一陽展が国立新美術館に会場を移して以降、展示室の構成が充実強化され5年が経ちました。それに伴い、初日におけるギャラリートークも年々充実した形で運営されてきたことは、一陽会の今後明るい展望を描ける材料を与えてくれるものと捉えることができ、大変喜ばしく感じました。



2011ギャラリートーク in 版画 版画部 委員 北村 五十一

第57回一陽展が今年も大きな期待を膨らませながら、9月28日初日を迎えた。

思い起こせば、国立新美術館で3回目、第55回記念一陽展。16室に版画展示が初めて独立した思い出深い再出発の年であった。

心配していただいた6名の委員・会員による記念招待作品を加えて、今までよりも見応えのある版画展示室となり、うれしさと今後への期待に胸膨らむ日となった。

第56回展からは、作品の質の向上を願ってギャラリートークが始まり、当日は制作上の課題を抱えた大勢の方々に活気付いた。また、絵画部委員、小松富士子先生もアドバイスに加わっていただき有りがたかった。

今回、昨年同様出品者案内は差し上げたものの、介護や勤務、体調を崩されたといった連絡をいただき、トークへの参加者は5-6人しか見込めず、せっかくの企画を残念に思っていたのだが、いざ始めてみると次々に出品者に来ていただき、昨年を上回る大盛況となった。

昨年、版画部初の試みであったギャラリートークは今年作品作りに生かされていると出品を見る限り感じられ感動した。みなさん凄く頑張ったね。

森代表も一陽会はプロの作家集団でありたい。何のために制作するのか良く考えてもらいたい。と今年の挨拶でも再度、一陽会再生の決意を述べられた。身の引き締まる思いだった。

鈴木 力先生の一人ひとりへの助言、うまく処理されて成功している所への指摘など、真剣に聞き入っている作者の顔を見ているだけでも、次回作に向けての意欲が感じられ微笑ましく思えた。

ギャラリートークで自分の作品がどのように評価されているのかを是非参加し聞いて、次年度作品に生かして欲しいと切に思っている。「何のために制作するのか」並べ飾って貰うだけで満足するのは、何にしたところでもったいない。出品する意気込みがあるからには、トークに参加し、ディスカッションしながら制作スキルを伸ばした方がより高いレベルな作品になる可能性があると思われる。

良い仲間の作品をいっぱい見て、分析しながら自分の作品作りに生かすことも又勉強の一つだ。

作品作りには作者のオリジナルな要素もまた大事だ。作家のフィルターは独自の感性によるもので、理念・造形・技法・色彩など、作者の感性が鑑賞者に感動をもたらすと私は考えている。自信をもってやりきることが何より一番。評価は見る側がすることであり、自分ひとりで納得してもなかなか人には伝わりづらいと私は思う。

ここのところ、一陽会の版画は他の団体の公募展に比してオリジナル性の点で高い評価を得てきていると思う。作者の顔と独自の主張が作品からほとぼり出ているからだ。みんな胸を張っていいと



思っている。

人口6万人には広すぎる佐渡島に住む私にとって東京のホームベンチや銀の鈴でポーッと過ごす時間もまた至福の時。忙しそうに過ぎ行く人々はなかなか島と違って生き生きと映って見える。のんびりばかりはできない。帰ったらまた意欲的にやらないと、気持ちを新たに出来る場所でもある。

ご存知の方もおありでしょうが、佐渡は版画の根付いた島で、相川には佐渡版画村美術館(詳しくはホームページ)もあって、アマチュア版画家も多い。多くの家の玄関には版画が飾られ、故野間先生もお見えになられた折には上機嫌で、集まった大勢の市展出品者に一陽展に出品するよう熱心に勧誘されていた。今も全国の高校生を対象とした版画甲子園が毎年開催されて、作品は広く県内に巡回されている。

そんな土地柄で育った私もUターン組の美術部出

身者に誘われるまま版画グループに参加し、年に4-5回のグループ展と中央突破を夢見て夢中で制作していた頃を時々思い出す。版画を始める以前は油彩画が全てに勝るものと信じていた私にとって、実験を繰り返す科学者のような制作行程は新鮮で楽しくもあり、新しい技法が工夫できた時には天にも昇る満足感があった。実に充実した時代も体験した。

3・11の東日本大震災は地震と原発事故の重なる空前の大震災となってしまった。今も避難生活をされている方々には慰めの言葉もない。亡くなられた方のご冥福を心よりお祈りしたいと思う。被災された一陽会関係者にも、心からお見舞い申し上げます。

次年度は、一陽会のホームページを会員交流の場にぜひ使わせて欲しいなどと考えていたら、もう2012年になってしまった。

明日から10月の一陽展に向けて、さらに精進したいと思う。

一陽会『中部』を想う…

絵画部 委員 久保田 正剛

昨年3月11日の東日本大震災、同時に、福島原発の放射能漏れ事故ほどショッキングな事はない。未曾有の大災害であり、10ヶ月過ぎた今においても、私の心にズキンとつきささるものを感じる。一日も早い復旧、復興を祈らずにはられない。

この災害は、大自然の猛威の前に、人間の力が為す術もなく無力であることを実証した象徴的な事故であった。地球上に生きているわれわれ人間としては、「明日はわが身」の覚悟が必要である。今回、1万人を越す死者、3千人を超える行方不明者、命からがら逃げ、「命」を落とさず生き抜いた人々等、この大震災を通して、人間の生命の壮絶なドキュメンタリーを見せつけられた思いである。

この「命」について私自身、人間として生きる事の根元を見つめ直す機会としたい。また、これからの制作活動を通して、祈る気持ちで「生きる」「命」の意味を問い続けていきたいと思う。

1957年(昭和32年)第3回一陽展(日本橋・高島屋)に出品した作品が初入選した。当時の地方紙はそれを結構大きく取り上げた。若さゆえの喜びと感動は、今も忘れることができない。私を一陽展に誘ってくださったのは、大学講師で彫刻家の郷悦三氏であった。(一陽会彫刻部会員-後に退会)

「二科会から分かれて3年目の新しい会。これからの有望な作家を求めている会だよ」と云われた。当時、中央展に憧れていた私の心をとらえた言葉でもあった。

初入選の夜行電車(JR大塚駅発東京行)の中で、偶然にも三輪乙彦氏(現一陽会副代表)と同席になる。全くの初対面である。それ以後、大先輩とのお付き合いは半世紀以上にも亘り、実に長い。初出品以後、今日まで50余年の間には、新しい人との出会いや、良きライバルとの切磋琢磨、多くの人からの励ましもあり、並べて悲喜交々の歳月を積み重ねて今に至っている。

名古屋で巡回展が始まったのが、1961年(昭和36年)第7回一陽展(名鉄百貨店8階特設催場)からである。第35回展まで実に29年間に亘って開催された。ことここに至るまでには、創立会員高岡徳太郎先生(故人)の並々ならぬご尽力があったからこそ、と諸先輩から聞かされている。一陽展が日本のど真ん中



「中部」に位置づいたことは、一陽会にとって大変意義あることである。また、現在の中部一陽会の基礎もこのような中で確立されていったと云ってよい。創立会員の諸先生方は、当時はまだご健在であり、毎年のごとく来名されていた。名鉄百貨店も、この一陽展を文化催事の一大事業と価値づけ、全面的にバックアップしていただいた。当時一陽会彫刻部会友で名鉄百貨店催事係長高橋勝氏（故人）は、巡回展継続のため、一陽会を退会してまでも粉骨砕身尽力され、結果10年ほど延長されたと聞く。改めて御礼を申し述べたい。

名古屋での巡回展には毎回名鉄百貨店のショーウィンドウを、当時一陽会きっての新進気鋭の北山泰斗（故人）・森秀雄両氏の新鮮でセンス溢れるオブジェが展示され、街行く人の目を引きつけた。また、百貨店の建物を支える通路側の太い4本柱には、デモンストレーションとして、本部会員と中部地区同人による共同壁画が、通行人の前で実演公開され、観客の目を楽しませた。会期中には、ジュニア一陽展も併設され、大いに賑やかなものであった。マスコミも名古屋の芸術の秋を彩る風物詩として派手に取り上げてくれた。

この巡回展は、中部一陽会の同人にとっては、来名の会員の先生方から身近で直接ご指導が得られることで、またとないよい機会であった。巡回展のない現在は、一人さびしい気がする。これも厳しい社会経済の現実が立ちだかかっており、致し方ないことであろう。

社会情勢の変化も影響してか、近年出品者の減少傾向が目立つ。一時期100名を超えた同人数も現在は70～80名程である。質の問題もあるが、少しでも出品者が増えるよう努力していきたい。支部の発展は、一陽会の発展に繋がるものと確信している。

2007年（平成19年）より、上野・都美術館から、六本木・国立新美術館へと舞台は移った。もう5年目となり、今ではすっかりこの新しい美術館の空気に定着している。

天井高く、広く明るいスペースでは、私自身の制作の上でもモチベーションを一層掻き立ててくれている。作家は、展示会場の雰囲気や、まわりの環境に随分左右されるものである。その点、一陽展の会場は全体の雰囲気といい、絵画・彫刻の展示バランスといい、よく配慮されているし、また一方、刺激的であり斬新さがあって一陽展の特色がよく出ている。

最後に、自作を振り返るに、古い、新しいは別として、余りこだわりなく、独自の心象の世界を表出する試みを長年続けてきた。これからも、自分の世界（エッジアート）を徹底して追求していきたい。

一陽会の今昔

絵画部 会員 水谷 喜美子

初めて一陽展に出品して昨年で45年になる。関西一陽展の初入选はその3年前だから48年……「それって化石やん」と言われそうな年月がたってしまった。化石にならないうちに数々の思い出を綴っておこう。

思い返せば中3の時、大きな人生の出会いがあった。学校の先輩に紹介されて大石可久也先生のアトリエに通い始めた。これが私の一陽会への足がかりとなった。先生の大らかな性格、あくなき美への憧れ、描く喜びの姿に感銘を受けて私は徐々に絵の魅力に引き込まれていった。先生の教えは全く自由だった。構図と色彩のバランス、描きたい対象とじっくり向かい合い、愛をもって描くこと。その5年後に、12回一陽展に初入选を果たした。この時、一生絵筆を離すまいと心に誓った。

初めて旧都美術館の玄関前に立った時の感動は忘れられない。会場には素晴らしい作品がずらりと並んでいて感動し、その表現の自由さ多様さに目を見張った。又、自分の絵のみすぼらしさがっかりもした。私も人に感動を与えられる作品を描けるようになるのだろうか？井の中の蛙は不安になった。

上野精養軒での懇親会で、小学生の頃から好きだった、人を和ませる絵を描かれる鈴木信太郎先生、軽妙で色彩の魔術師の野間仁根先生、隙のない奥深い風景の高岡徳太郎先生、この御三方を頂点に多



くの先生方が並ばれていた。当時一陽会は会員、会友、一般とその構成はシンプルで和やかだった。東京本展後、大阪巡回展には大きなオーラを背負って野間先生が来阪なさって、私達を励まして下さり、出品者は競って講評を願い出たものだった。今では信じられないが当時は朝日・毎日・読売各新聞に初入選者、受賞者名を載せてくれた。ウソのようなホントの話だ。野間先生亡き後は、勝・北山両先生が長年にわたり来阪された。又、両先生亡き後は森先生に引き継がれて現在に至っている。

まだ独身だった私もやがて結婚し、忙しい子育ての期間も休みなく出品し続けられたことは、夫、姉達の応援あつての事、幸せ者だ。

「一陽会の今昔」という標題でペンを走らせているが、私にとって関西支部との関わり合いが大きいので、ここからは支部との思い出を書かせて頂く。

当初、支部には創立会員の米良道博先生、彫刻の浅野猛府両先生が御健在で、会員に大石、上田春雄先生他2先生、彫刻の榊山勝先生、博学で若き佐野儀雄先生は会友だった。

40年程前は、大阪巡回展の初日の朝、旧大阪市庁舎前広場で有志が集まり、3枚の大パネルに絵を描き、公共団体に寄贈するというデモンストレーションをやった。毎年NHKに取り上げられ、一陽展をアピールした。又、神戸祭りでは一陽会の宣伝カーを出してパレードに繰り出した事もあった。何より先生方は若く、祭り好きで楽しかった。懐かしい思い出だ。

大石、佐野両先生を中心に支部は大いに発展し、支部会員も現在65名になった。

1年に2つの公募展（9月の本展・巡回展、3月の関西展）を催し、他に年1～2回の選抜展、新鋭展、小品展等が企画されて切磋琢磨の機会が与えられている。その開催地も大阪・神戸はもとより京都・奈良・西宮・豊岡・赤穂と関西一円に及んでいる。ここ10年程は6月に関西作家展（中品展）として大阪に引き続き県立近代美術館分館（神戸）で毎年行われている。これはさぼらずに描けというお達しなのだろう。

その他、研究会やスケッチ旅行等、数々のイベントが行われてきた。中でも佐野先生発案で支部主催の2週間のヨーロッパスケッチ旅行は5～6回催されたのだろうか。風景をモチーフにしている私にはこの上ない企画で、子供がまだ幼いにもかかわらず飛びついた。家族で参加したことも2度3度だ。この時々のスケッチと旅日記が作品の源泉となっているのは勿論だが、一生の宝物でもある。佐野先生に感謝、感謝。

この関西一陽展も3月には記念の50回を迎える事は大変めでたい。

多くの先生方や同志が亡くなられたり退会された。さすがに高齢化は進んでいるが、老いにパワーが加わっているので力作が並ぶことだろうと期待している。

私は描くという行為はマゾだと思う。自分を追い詰め、のたうち回ることに快感を感じる変な人種なのだ。やっと出来上がった作品を眺めてにやりと笑っている自分に満足感を覚えている。この変態世界から暫く抜け出せそうもないだろう。

何らかの縁で一陽会のもとに私達は集まった。会場で謙虚に自分を見つめ、今後の制作に生かしていきたいと思う。一陽会が素晴らしい会で本当に良かった。

関西支部の仲間たち



写真提供/関西支部：藤本元美、福家省造 千葉支部：棚倉英雄



阿部賞・会員推挙

彫刻

深谷 直之

私が一陽展に初めて出品したのは2003年の事でしたから、かれこれ9年の月日がたとうとしています。多くの作家同様、私も経済的に非常に厳しい状況の中、何とかここまで制作を続けてまいりました。作家活動を継続させる事の難しさを痛感し、勉強させられた9年間でした。毎年僅かずつでも成長を遂げる事が出来たのは、共に出品を続ける同年代の友人達や、諸先生方の叱咤激励があったからこそだと思っています。

会員に推挙して頂いた時に、私の中に、会の更なる発展の為に尽力を尽くさなければいけないという使命感が沸き起こりました。諸先生方の御意見を伺いながら、会員としての仕事を少しずつ覚え、一陽会を支えて行ける存在になろうと思っています。その為にも何とかして私自身が作家活動の継続を実現し、一陽展に出品し続けなければなりません。厳しい道のりではありますが、この会員推挙の年を契機に、私の思考も前向きなものに切り替え、日々努力を重ねて行くつもりであります。

初めて山の形態を石に刻んだのは、パリに留学していた2004年の事でした。出来上がった作品はフランス人にはうけていたのですが、何分それ以前は動物をモチーフとして彫刻を制作していましたから、作風の劇的な変化に自分自身戸惑いを覚えていました。同年日本に帰国してから早速山の形態の作品を制作し、一陽展に出品しましたが、風景を立体の中に収める事の難しさを痛感し、2年程制作を止めていました。一陽展には2005年、2006年と鳥の形態の彫刻作品を出品したのですが、特に2006年の作品の出来が悪く、得意なはずの動物の形態の制作に行き詰まっていたのをよく憶えています。やはり難しい事にチャレンジしなければ、自分に新しい血液を送り込まなければ、という思いから、2007年以降再び山の形態の彫刻を作り始めました。前作の欠点を考慮し、毎年少しずつ改良を加えながら、制作は今日まで続いています。ただ自分の作品は良いものなのだろうか、彫刻といえるものなのだろうか、という疑問を抱きながらの制作だったので、今回阿部賞を頂いたという事は、私にとって非常に重要な出来事となりました。評論をする立場の方が評価を下されたという事は、少なくとも自分のやって来た事は間違いではなかったのかな、と内心ほっとしています。今回頂いた賞に感謝し、励みにしながら、今後も精進して制作活動を継続して行こうと思いま

す。有難う御座いました。



損保ジャパン美術財団奨励賞・会員推挙

絵画

墨川 廣徳

昨年の「一陽賞」に続いての大きな受賞に驚きと嬉しさと、その責任の重さを胸に日々制作活動に取り組んでいます。

先輩先生方からのご助言を頂きながらも、長い間自分の創作がどの方向へ向かっているのか解らず、思い浮かぶままに自分の心の中にある象徴的な何かを描いていくうちに、カンヴァスの中に自分の現在の姿を見出すようになりました。ギャラリートークでは「作者は自分の好きな物を描いたよう」というご感想を頂きました。描き始めはその感じもあったのですが、自分の意志とは無関係に、それぞれの部分に何か寓意的なものを感じるようになりました。このような作品を成立させるためには、しっかりとデッサン力と構成力が不可欠なので、画力に乏しい私にとってはつらいものがありました。描き進むうちに次第に心の高ぶりを感じるようになり、描くことが嬉しさと楽しさに包まれていた少年時代を思い出すことができました。

私は構想や下描きに時間をかける割に制作時間が短いのですが、もっとしっかりと描き込むべきだと考えたり、「作業」に陥らないよう制作意欲の維持を考えて集中して取り組むべきだと考えたりしますが、今回は普段の1.5倍の時間をかけていました。それでも平均よりはかなり短いと思いますが、いつもより興に乗って絵筆を持つことができたのは、上手い絵を描きたいなどという邪念が無かったのが結果として良かったのかもしれません。

学生時代から、人とは違ったものごと、大手、搦め手と様々なことを試みてみましたが、どれも唯の小細工に終わり、なんら成長することができませんでした。しかし、ついに無能無才にしてこの一筋につなげることができたのかもしれないと喜んでます。苦しい苦しいと悩みながらも、これからは絵筆を執り続けていきたいと思えます。

栄誉ある賞をいただき、まことにありがとうございます。

幼稚園に入る前から絵を描くことが大好きでしたが、決して自分に絵の才能があるとは思っていません。評議をする立場の方が評価を下されたという事は、少なくとも自分のやって来た事は間違いではなかったのかな、と内心ほっとしています。今回頂いた賞に感謝し、励みにしながら、今後も精進して制作活動を継続して行こうと思いま

He who can does.

he who cannot teaches.の言葉に甘んじていてはならないと、先輩先生方のご助言を頼りに自分なりに努力を重ねたつもりでしたが、よもや美術界の権威、「一陽会」の末席に名を連ねることになるとは夢想だにしていませんでした。

地元の方でもなく、ほとんど面識のない、様々な年齢層の作家先生が、絵筆以外には私との繋がりが無いにも関わらず、叱咤激励、ご助言を下さる。その多くの先輩先生方に心から感謝しております。みなさん旧知の間であるかの如くあれこれと作品のこと、美術の話、個人的な話をしてくださいませ。他の美術団体はなかなかそうではないと聞いております。ただただ美術を愛し、学び、創作活動に取り組む。その門の中に立つことのできた喜びと緊張でいっぱいです。

芸術をはじめとする日本の文化活動は、世界の中でもとても高い評価を得ているにも関わらず、教育現場や社会の中では極めて厳しい状況にあります。私自身はこれから会員として、恥ずかしくない作品をと気負ってはみませんが、おそらくこれからも今まで通り、「なんやこの絵は!？」と呆れられるような絵を描いてしまうような気がします。それでもより良い創作活動を目指すことで、自分を育ててくれた美術の世界に少しでも貢献できれば、と思っています。

一陽会や各美術界の先生方は言わずもがな、親兄弟、学校の先生、友人達と家族、浅学な私を育てて下さった全ての方に心からの感謝とともに御礼を申し上げます。



野外彫刻賞

彫刻

伊藤 正人

日本が西洋式彫刻を知って一世紀余。日本の近代彫刻は、明治に移入された西洋式彫塑に発します。しかし、これは技術と方法上のことであって、内なる思想・精神までが西洋化したのではなかったと思います。実際に我々は、現代でも日本の風土、民族的自然観、人間観、文化観等に支えられ制作されているからです。

更に、今日では抽象的概念の移入により、具象作品だけが彫刻ではなくなりました。素材も多様になり、概念領域も拡大してモニュメンタルな抽象野外作品も盛んに制作・設置され、社会の中で彫刻に対する関心も高まってきました。3次元を擁する空間芸術としての彫刻が建築と連動したり、都市環境整備に伴うパブリックアートとしての重要性を考察することが課題となってきたのも事実です。

彫刻が(日本か西洋) = (具象か抽象)の作風・表面的違いを越え、空間の中で、フォルムの広がりやリズム、量魂の動き、光りと影の変化、内側から溢れ出る生命観、そして何よりも思想・精神を表現していくことには、何の変化もないと思うのです。

真の問題は、上記を感じ理解するもの「感性、感覚」にあるのです。ここでは芸術、美術に限定し「美的感覚」としますが、この美的感覚の質、レベルの探求と向上を目指す制作姿勢こそが、我々の制作活動を根底から支えているものではないでしょうか。

絶対的な普遍や真理を追い求めた末、導き出された結晶が数式や法則であるからこそ美を宿すのと同様、私は石を素材に世界の根源を意識し、凝縮されたエネルギーとイメージを内包し空間をも作品とする制作活動を続けることで、私の石が芸術作品としての美しさへと変容、昇華する事と信じ制作を続けます。



一陽賞

絵画

小松 啓子

思いがけず一陽賞をいただきまして、とても嬉しいことでした。前回までの作品は、イギリス旅行の際、立ち寄ったストーンヘンジの神秘的な雰囲気魅せられ、光と石の重厚感をキャンパスにいかにも表現できるか、その思いを油絵で描きました。

今回の作品は、世界遺産の建築物に心を惹かれ、レバノン二世紀のバックス神殿を描きました。コリント式装飾の施された正面回廊のアカンサスの葉の装飾帯や列柱など、興味深いことばかりで、図書館に度々足を運びながら、筆を進めていきました。

初めてのアクリル絵の具は不安で一杯でしたが、油絵の具と違い、筆が洗え、透明感があり美しく、新しい発見となりました。無臭なので、自宅アトリエにて、朝夕、飽きることなく眺めては、手を入れていくうちに、毎日身近に絵と向き合える自由と、無心に描く充実感を楽しめるようになりました。その作品が今回このような賞を頂き、未だに信じられない思いで一杯です。

しかし、私はまだまだ作品作りも出来ておらず、現実には反省させられることばかりです。いつの日か、感動を訴える心のあるテーマの絵を目指したいと試行錯誤の毎日です。

次の作品も、世界遺産をテーマとして描いていきたいと思っています。ここまで導いて下さった一陽会の先生、諸先輩方々に心から感謝すると共に、自分自身も努力をしたいと思えます。



一陽賞

彫刻

酒井 恒太

私は一陽会絵画部の運営委員館野弘先生が勤務する茨城県の下館第一高等学校出身で、今こうして芸術の道に進んだきっかけとなったのも約十年前になる先生との出会いでした。私の記憶ではいつものように放課後美術部に顔を出したとき、先生が舟越桂の展覧会図録を抱えワクワクした様子で「彫刻も面白いぞ」とあの独特の口調で私に言ったのでした。しかしその時は何の関心も受けなかったのですが、何となく日々のデッサンで平面に立体である石膏像を描き起こすことに疑問と苛立ちを感じていた私は、思い切って立川という場所も知らずに美術予備校に通うことにしました。

最寄りの駅はなく、当時はつくばから出る路線さえなかったため、片道4時間をかけて2週間ほど通うことにしました。私は今でも本当に運が良かったと思っています。たった2週間の受講生である私に熱心に指導し、楽しそうに自身の制作写真を見せてくれる講師の方がいました。特に圧巻だったのは目の前で積み上げたベチャベチャの水粘土にお手製の木べらを当て、ものの数十秒でイキイキとしたモデルである学生の首を掘り起こした（ような感覚であった）ことでした。大学に入学した後に知ったことでしたが、その方は現在日展にて活躍されている勝野眞言氏でした。

高校に戻った私は館野先生に勧められた本（ジャコメッティ／矢内原伊作著）の虜になり、大学にて彫刻を本格的に学ぶことを決めました。

量とは何なのか。面とは比例均衡とは構築性とは…。大学に入った私は彫刻として成立するための理念を理解しようと一陽会彫刻部運営委員の中村義孝先生に指導を頂き、今日までただひたすらに彫刻に没頭してきました。今の自分の存在があるのは彫刻として充実するための造形を教えてくれた中村先生のおかげだと、ふと振り返る度に感謝し、いつも過去に意味を見出せるような生き方をしていけたらと思ひ、今日に至っています。



青麦賞

絵画

樋口 三千代

3年前の霜降の頃、耕地に最後の輝きを発しているような、トマトの山を目にしました。やがて知人に一戸のトマト農家を紹介され、今年まで取材を続

けてきました。

晩秋から初冬にかけて、ビニールハウスからトマトが蔓ごと一掃される。特に初霜を期に一斉の光景を目にすることが出来る。田畑に敷かれたり、堆く積み上げられたり、やがて堆肥となって大地に還って行く。

寒空のもと、やがて人生の縮図のようなトマトたちのドラマが始まる。熟して食卓に上りそうなトマトは真っ先に野鳥に啄まれて、大口を開け冬空に向かって叫んでいるようだ。ピンクやうす緑のトマトも寒さに耐えながら佇むこと数日。真っ赤に色付いて鼓動を発している。トマトの鼓動は相俟って作物を育ててきた大地の鼓動に重なって感じられる。

一霜ごとに赤味は透けて、冬の彩りへと同化し、腐葉土になって大地に還って行く。毎年繰り返される自然の営みである。

今日まで身近な野菜たちをモチーフに制作して来ました。特に雪の中で寒さに堪えているような大根、凍れる畑に寄り添い春を待つ白菜。納屋の中で微かな春の息吹に貯蔵庫いっぱい芽を伸ばすジャガイモたち。そのような糧の野菜から自然の息遣いを感じとって来ました。またこれらのモチーフを主題にすることによって、自然の深さを覚える今日です。

これからも更に、視点を広げ、受賞作に囚われることなく、新たな展開を心に、私の世界を築いて行きたいと思っています。



青麦賞

彫刻

松下 良徳

ロダンや荻原守衛にあこがれ、粘土で首を作り石膏取りをして初めて彫刻を作ったときから約30年の時が経ちました。ずっと人体の具象彫刻に取り組んでいます。なかなか思った通りに行かず、きれいな彫刻や受けのいい彫刻を作りたいという邪念が働き悪戦苦闘しています。現代は様々な人体像があり、すでに用尽したかのような感もありますが、まだ、現代の人間像制作には様々な可能性が残されていると信じ、毎年自分の生活と関連付けながら、また美術教育や生徒指導の仕事しながら制作しています。はじめてこのような大きな賞を頂いたこと、学生時代も今一つ劣等生だった自分を一陽会の先生だけに見捨てずに励まし、褒めて頂いたことなど、ここまで制作できたのは、いろいろなことを含め一陽展のおかげです。自分のような彫刻を評価して頂いたことを励みに、これから新たな出発と思ひ「蠟型石膏鑄型ブロンズの研究」や「塑像」を中心に制作活動をしていきたいと思います。



会員賞

絵画

平野 昭子

各々の屋根の下には、人々の生活があり、様々な葛藤があるでしょう。屋根はそれら全てを覆い、何事も無いかのように平然と居並び、時は、長い月日、過去から未来へと粛々と流れていきます。

時の流れの「今」を捉え、屋根の下にある人々の生活を、瓦一枚一枚に色を重ね、「屋根のうねり」として表現してみました。

自分自身も時の数直線の「今」を気負うことなく、落ち着いた気持ちで、立っていられたら良いと思っています。



会員賞

彫刻

土井 敬真

自画像の制作を続けてもう10年になります。学生時代は友人や家族をモデルとした作品を制作していましたが、大学を出てから本格的に自画像の制作を始めました。そうして制作した最初の自画像の作品を2001年、一陽展に初出品しました。私の一陽展出品歴はまさに自画像の制作歴といえます。

彫刻に対する基本的な考えは初出品した当時とそう変わってはいません。毎年全力でその時その時の自分自身を作品にしてきました。初出品当時の彫刻部を振り返ってみると同世代の若い出品者が少なく、いても次の年にはもう出品してこないような状況だったように思います。私が一陽展に出品しようと思っていると、友人から「本当にここで良いの？」と言われたことを今でも覚えています。他団体と比べて活気も作品の質もややおとなしく感じられていたことも事実です。

数年前から同世代や若い後輩たちの作品が少しずつ増えて来、また会場を国立新美術館に移したことによる展示環境の変化により近年の彫刻部は静かな盛り上がりを見せてきているように思います。しかしまだまだ本気で全力で立ち向かって制作した作品は少ないような気がします。確かに彫刻の制作には或る程度の環境が必要となり、なかなか学校を出た後にも学生時代と変わらない大作の制作を続けることは難しいです。しかし今一度厳しく自分達の作品を鑑み、これ以上質を落とすことなく更なる向上を目指さなければ、今の静かな盛り上がりはすぐに立ち消え、若い出品者達も離れていってしまうでしょう。今後の一陽会の彫刻部がどうなっていくのか、

非常に大切な場面に出くわしているように思います。



会員賞

絵画

山口 陽子

夢、夢、夢、やっぱり覚めない、本当だった。昨年までF130号、今年はS100号と小さくしました。体力的にも丁度良い、出品する事に意義があり、楽しく自分らしい絵をとりましたので「ビックリ」しました。

私は今とても楽しく生き生きと生活をしていません。それは絵を描く楽しみを知ったからです。83才で亡くなった母は私が絵を描いているなど想像もしなかったでしょう。学生生活の中で1番の苦手は絵だったからです。叔母さん達は「姉さん（母の事）は今頃あの世でビックリしているよ」が口癖です。

一昨年叔母の入所しているケアハウスに私の屋久島の絵を寄贈し大喜びされました。120号の絵なんて誰もほしがりませんものね。私も大喜びです。人の役にたった事がとてもうれしく、幸せな気持ちにさせてもらいました。これからも病院とかホームで眺めてみたいという人が一人でも多く現れてくれる事を願っています（笑）。絵を描ける喜びを教えてくださいました先生方に、感謝、感謝でいっぱいです。

これからも得心のゆく仕事が出来ますよう努力してまいります。本当にありがとうございました。



会員推挙

絵画

荒川 幸知子

えっ？わたしが会員に？…知らせを聞いた時、嬉しさより戸惑いの気持ちで一杯でした。そして4ヶ月たった今は…。やはり戸惑いと不安、重圧が大きく占めています。どうすれば気持ちが楽になり、少しでも自信がもてるようになるのか、そこで初心者だった頃から今日までのことを振り返ってみました。習い始めたのは約15年前です。当初の残っている作品を見ると「どうしよう、どうしよう」のままならぬ絵、恥ずかしい限りです。通い始めてすぐに千葉一陽展があり、恥ずかしながらもそれでも先生に励まされて初出品、以後毎年出品して来ました。2年目に出品した「魚の干物」の絵は今見るとそれはひどい干物です。そんな中、継続は力なり下手でも良いから続けよう精神で先生の指導のもと、いろいろな画題に挑戦してきました。

「線路」へのきっかけは1999年夏、小湊線の駅舎を写真に撮ろうと歩いて旅している時でした。大正時代の「駅舎」群や上総鶴舞駅構内にある「魔線」に出会うことが出来、それらをモチーフに描き始めました。先生方を始め、諸先輩たちのアドバイスを受けてつ年々進化、現在の「線路」の形となりました。不思議なことに2年くらい前から線路はもちろん、それを支えている道床や枕木、螺子、枯れ草もわたしにとって今まで以上に愛おしい存在になってきました。描き続けてきたことでそう言う気持ちが生まれ、それが今回の評価を受けることになったのでしょうか。もしそうだとしたら少し自信が持てそうな気がします。今回の会員推挙で思いがけず出発点に戻り、色々考える事ができました。今後繋がるかと思っています。

絵の中に自分の気持ちをどう表現するか、まだまだ分からないことばかりでこれからもわたしの課題です。そのためにはいっぱい絵を描くこと。今年のわたしの目標は課題に向かっていろいろな題材を1枚でも多く描くように努力することです。



会 員 賞

絵 画

小畑 恭子

「虚構と実像の接点を追いなさい」1984年、一陽会30回展の時に聞いた講師の言葉です。制作活動に足を踏み入れたばかりの私には、この言葉は重く大きな壁でしたが、今では根柢子となり、揺らぐことのない作品制作の軸になっています。

さらに、原初的なものと永遠的なものを同時に、1枚の画布の中にいかに表現しようかと、制作するたびに掘り下げて考えます。

1984年～1995年の水と夢シリーズ、1996年～2011年の消滅する記憶シリーズは、そうした一連の作品です。

制作活動を除けば、ごくありふれた日常を送っている毎日ですが、その中で見えるものの背後にある真の姿を求め、画面構成を考えています。

試行錯誤しながら徐々に、普遍的な世界が見出されていきます。

会員賞をいただいた「消滅する記憶…虚実」は、光と影を反転させたものを同時に、1枚の画布に描くという長い間あたためてきた構成です。

描き進めていく中で、あの大地震(東日本大震災)が起きました。心は揺す振られ、混沌とした気持ちのまま描き終わり、最初にイメージした最終地点に着地できなかったように感じています。また、着地できなかったのも、作品自体が私の手を離れ、時

代の断片を写し取ったのかもしれないと考えたりもします。

あの日、私たちは、虚像と実像の接点を目の当たりに見たのかもしれませんが。

そして、あの日を境に、日常の観念に慣れきってしまった私たちは、目には見えないけれど実際には、そこにあるものの存在を知ることとなりました。



会 友 賞

絵 画

南部 聡

数年前の春先、自宅の庭木の植え込みにたびたびゴミ袋が投げ込まれるようになりました。通りかかりの人の嫌がらせだったのでしょうか。妻と毎週のように愚痴を言いながら片付けていました。果物など生ゴミが入ったビニール袋の中は陽気のせいでも腐敗しており、私たちは仕方なくそれらのゴミを裏庭の片隅の土の上に撒いて処分していました。そんないたずらもしばらくしておさまりましたが、私の心には、その時土に撒かれた果実の様子が強く印象に残っていました。ビニール袋から吐き出されドロドロになった果肉は、乾いた地面に吸い込まれるように浸み込み、数日後には干涸らび、やがて風雨に晒され、化石のように砂礫と同化していきました。その様は汚い、醜いではなく川の流れのように自然なものに感じられましたので、そのまま描いてみることにしました。

現在の作品のテーマに取り組んで5年目になります。それまでの私は思い付きでテーマや技法・表現方法を再三変えることを繰り返していましたが、一陽会に出品を続ける中で思索・制作・発表の機会を与えていただいたことにより、少しずつではありますが地に足をつけて制作することができるようになりました。多くのご助言もいただきました、『なぜ描くのかを自らに問い、心に残ったものをそのまま描いてみる』、『小細工をせずテーマの核心を素直に表現する』、『絵画において自らの手で描くことの意味を考える』。これからは初心を忘れずに制作を続けていきたいと考えています。

東 京 支 部

TOKYO

2011年度の活動

■東京支部展 7月29日～8月3日

〇美術館(大崎ニューシティ2号館2F)

出品状況 絵画39名、版画6名、彫刻9名

初回の展示会場で壁面・スペースとも従来より狭いが一般・会友はサイズ・点数ともに優先し、会員以上は控え目の出品とした。

会期中、趣きのある観賞ができ、いい展示会ですねと云う温かい評も多く受けた。

■研究会 7月29日

午後展示会場にて例年通り一般・会友の出席者と作画の内容を尊重した講評会を行う。

指導・助言は委員・会員の先生方が担当、指導と親交を深めた研究会であった。

2012年 支部活動

■東京支部展 4月24日～4月30日

東京都美術館(上野)

開館時間 4月24日am9:30～陳列・合評会

4月25日～4月29日am9:30～pm17:30

4月30日～pm14:30 pm15:30(閉会)撤去

初めての会場のため出品に関する時程・サイズ・点数等詳細は部各位に通知します。会場が広がりますから積極的な出品と作業のご協力を併せてお願いします。

2013年 支部活動

■東京支部展 4月17日～4月23日

東京都美術館(上野)

東京支部員の活動

■個展

●29回 石井悦夫個展 7月18日～24日

スパンアートギャラリー(銀座)

●国井トミ子展 感動のメモワール～

7月20日～25日 稽古堂1F(会津若松市)

●伊藤正人 石彫展 7月20日～8月2日

日本橋三越本店本館6階アートスクエア

●田中正秋(みちのくの祭り)展

8月23日～9月19日(週刊新潮表紙絵原画)

みちのくの祭、おぼろ月夜の館(野沢温泉村)

●棚瀬修次Black Space in 一かたち一展

9月5日～10日 井上画廊(銀座)

●武田守弘展 10月1日～15日

千年画廊(西池袋)LIVE WORKS

●大川きよ子展 一いのりー

11月28日～12月3日 gallery UG(東神田)

●幡谷フミコ個展 12月5日～10日

みゆき画廊(銀座)

■グループ展・その他

●現代抽象作家展—surprise 4—

2月18日～3月2日 ギャラリー絵夢企画

抽象作家25名による表現(新宿) 棚瀬修次

●Art Wave 2011 in Tokyo 2月21日～26日

A's ギャラリー アーチストスペース(銀座)

棚瀬修次

●仮面仕展 2月21日～3月5日

ギャラリーGK(銀座)

棚瀬修次

●ミモザ展 2月27日～3月4日

銀座・竹川画廊

伊沢良子

●DU NORD展 2月28日～3月5日

銀座 井上画廊

藤田裕子

●現代作家による「黒の表現」展

2月28日～3月5日

小松富士子

●抽象作家による「後期印象派展」

4月11日～23日 ギャラリーG.K.

5月9日～22日 R&Pギャラリー 棚瀬修次

●2011年CAF.N金沢展 5月31日～6月5日

金沢21世紀美術館市民ギャラリー

棚瀬修次(安田 淳)

●第35回 キリスト教美術展 6月8日

6月8日～19日

銀座教会東京福音会センター

鹿島なおみ

●銀猫Glassとアトリエ権展

6月13日～6月19日

ギャラリーミハラヤ(銀座)

平田千代子

●絵夢コネクション2011 7月1日～13日

ギャラリー絵夢(新宿)

棚瀬修次

●創立60周年記念 日本ガラス絵協会展

7月12日～21日 gallery一枚の繪(銀座)

高岡 徹

●北アルプス展望美術館リニューアル記念

小島孝子と女子美同窓展(長野県)

7月23日～9月25日

小松富士子

●宇田幸正・一井洋子 二人展

7月25日～31日 あかね画廊(銀座) 宇田幸正

●Contemporary Art In Suginami

11月5日～12日 スタジオSKホール

(新高円寺ツインビル2F)

高岡 徹、小松富士子、杉山 司

●2011CAFネビュラ展 11月9日～20日

埼玉県立近代美術館

小松富士子

●錦秋展 11月10日～15日 ギャラリーK

越谷市小柳ビル3F 阿部知暁(鹿又保子)

杉山 司、棚瀬修次、幡谷フミコ

- Water Color千葉 (第2回展)
11月20日～26日 棚瀬修次 (大久保綾子)
- 第25回 象 油彩三人展
11月28日～12月4日
ギャラリーくぼた4F (京橋) 山田幸彦
- 華展 12月5日～15日
ギャラリーセイコウドウ (銀座)
伊沢良子、小松富士子、坂口かほる、鈴木晶子
- 第25回 暦展 1月9日～14日
銀座 井上画廊 小松富士子、棚瀬修次
- 第20回新春現代作家小品展 1月18日～28日
千駄木画廊 (文京区) 石井悦夫、棚瀬修次
- 一麦会 第39回油彩作品展 1月23日～29日
京橋・ギャラリーくぼた・4万
加藤恵子、山田幸彦
- ギャラリー5周年記念
GRAND STAGE展
1月23日～2月3日 STAGE-1- 棚瀬修次
- 第16回 日美展 1月30日～2月4日
ギャラリーせいほう (銀座) 伊藤正人
(棚瀬修次 記)

関西支部
KANSAI

2011年2月～2012年1月

■展覧会

- 第49回関西一陽展 2011年3月16日～21日
大阪市立美術館
- *東日本大震災直後の展覧会。哀悼と御見舞いの思いを持って開催。
- *入選作品が増え、彫刻の展示室も含め見やすい構成になり、入場者も多かった。
- *初日に会場において出品者の合評会(ギャラリートーク)を実施し出品者が多数参加。支部会員による一人ひとりへの講評は励みになった。
- *同日、授賞式と懇親会を開催。受賞者、初入選者からの抱負も聞かれ、盛況だった。
- *さらに、出品者が増えることを望みたい。

<出品状況> 支部会員 絵画 69点 彫刻 7点
入選 絵画 87点 (50人)
彫刻 4点 (3人)
入場者 2807人

<受賞者>

- 関西一陽賞 藤原加奈子 (絵)
- 大阪市長賞 石原夕起子 (絵)
- 大阪市教育委員長賞 坂本真左子 (絵)
- ホルベイン賞 今浦 稔 (絵)

- 奨励賞 赤松絵里子 木寅 勉
下河辺美都里 妹尾佑介 中西敦子
永田敦子 濱上寛司 福井建彦
(以上、絵)
- 次年度無鑑査 榎本 馨介 (彫)
前川 芳輝 (彫)
- 会友賞 安孫子百合 (絵)



- 2011一陽会関西作家展 6月1日～5日
兵庫県立美術館王子分館 原田の森ギャラリー
*2年ぶりの神戸での開催。20号～50号までの作品を一人1点ずつ展示。観覧者も多く、好評。
*会期中、東日本大震災復興への募金実施。
- 【出品】 安孫子百合 泉谷 淑夫 榎本紀代文
大西 正雄 大東 明宏 奥村 佳弘
尾島 守 川辺 嘉章 楠森 道剛
古曾 成樹 佐野 儀雄 島本 芳伸
下原 知子 墨川 廣徳 隅田 博美
宗 保江 高孝壬津子 たつみゆうこ
丹後 香子 辻本 光彦 土井 稔
豊岡知世枝 中田 絵里 永田 啓子
新村 則一 西浦まゆみ 西尾 昭子
西谷のり子 西山真理子 橋本 紀夫
廣門 幸三 福家 省造 藤本 元美
古川 晶弘 古野恵美子 松村 一夫
三阪 雅彦 岬 和男 水谷喜美子
溝下美代子 三村 恵理 宮口 観
山下 潤志

- 第57回一陽展<大阪展> 10月25日～30日
大阪市立美術館地下展覧会室
- *絵画117点 版画6点 彫刻12点の展示
巡回作品 絵画・版画46点 彫刻4点
関西支部会員作品 絵画・版画58点 彫刻5点
関西の入選作品 絵画19点 彫刻3点
- *入場者 2895人
- *巡回展にふさわしい、大作に応じた展示を行い、充実した展覧会になった。
- *初日の懇親会に、森秀雄代表、鈴木力副代表が出席。作品の講評などをいただいた。
- <受賞者(関西支部関係)>

- 損保ジャパン美術財団奨励賞 墨川廣徳 (絵)
- 会員賞 土井敬真 (彫)
- 会員推挙 墨川廣徳 (絵)
- 会友推挙 孫 鵬 (々)
前川芳輝 (彫)

■支部行事

●事務局会議

- *支部会議および展覧会の前に随時開催
- ・1月15日・3月13日 (関西一陽展陳列担当)
- ・5月7日・10月1日・10月23日 (一陽展陳列担当)
- ・11月19日

●支部会議

- ・5月15日 第57回一陽展諸準備、発送事務
関西一陽展反省など
- ・9月11日 第55回一陽展出品作品の把握 (下見)
- ・10月10日 一陽展<大阪展>諸準備、発送事務
- ・12月4日 決算総会 (第49回関西一陽展発送事務)
- ・2012年1月22日 年度当初総会・新年会
(年間計画、予算、関西一陽展準備など)

●研修会

- <一陽展に向けての作品講評会>
8月21日 エル・おおさか
- *一般出品者、会友10数名の作品の講評を行い、出品に向けての意欲が高まり、結果を残すことができた。

■個展

- 第18回 水谷喜美子展 1月6日～2月13日
尼崎市・尼信博物館
- 古野恵美子展 3月22日～4月3日
京都・ギャラリーa
- 岬 和男展 4月18日～30日
神戸市・ギャラリー サークス・サーカス
- 佐伯武彦個展 6月8日～7月18日
鳥取市・渡辺美術館
- 福島涼子展 7月31日～8月6日
東京・アートギャラリー銀座
- 三阪雅彦 水彩展 9月3日～13日
大阪市・ギャラリー嶋ノ内
- 北嶋正明遺作展と仲間たち(故人・会友)
8月2日～7日 姫路市民プラザ

■美術館企画展など

- 第19回川西市展 (2月)

- 川西市中央公民館・文化会館
審査員 水谷喜美子 奥村佳弘
- 守口市展 (9月) 審査員 水谷喜美子
- 第26回日本の海洋画展 (7月～)
(全日本海員福祉センター主催)
(7月) 横浜市民ギャラリーほか 古曾成樹

■2011年度のコンクール入賞・入選など

- 第57回全関西美術展 (大阪市立美術館)
佐野儀雄 (招待) 山下潤志 (審査員)
福家省造 (賞) 奥村佳弘
- 2011京展 (京都市美術館) 福家省造
- 第24回美浜美術展 奥村佳弘

■支部会員・関西出品者の各種展覧会での作品発表
(企画展、グループ展など)

- アートフォーラム宇治美術作家展
(3月10日～13日)
宇治市文化センター 福家省造
- ろまんの世界 大和路風景絵画展
(5月5日～11日)
近鉄百貨店橿原店 島本芳伸

- 第27回ハクの会作家展 (11月22日～27日)
京都府立文化芸術会館
奥村佳弘 福家省造 古川晶弘

- The 9th Salon DO Painting exhibition
(11月25日～30日) 守口文化センター
安孫子百合 小林 祐子 高孝壬津子
田淵 幹夫 壇野 計蔵 西山真理子
水谷喜美子 水谷 浩三 森本 正義
山岡正美

- 第13回たまねぎの会 絵画展 11月25日～30日
枚方市民ギャラリー 奥村佳弘 (賛助)
- 第4回・F6展 1月28日～12月3日
大阪市・マサゴ画廊 松村一夫

■2012年度の主な予定

- 第50回記念関西一陽展 3月15日～20日
大阪市立美術館
- 2012 一陽会関西作家展 6月20日～24日
兵庫県立美術館王子分館 原田の森ギャラリー
- 美術鑑賞一日旅行 7月 (予定)
- 第58回一陽展<大阪展> 10月25日～10月30日
大阪市立美術館
- 第51回関西一陽展 2013年3月

大阪市立美術館

- 研修会
 - ・8月19日(日) 一陽展出品作品の下見会
13:00～ エル・おおさか
- 逝去 会友・石村慶子
- 退会 会員・玉川 浩、中西俊佳
会友・秋山慶子

■2012年度関西支部事務局

事務所 藤本 元美
 会計部 (支部会計) 高孝壬津子
 (関西展会計) 川辺 嘉章
 (大阪展会計) 尾島 守
 事業部 大東明宏 橋本紀夫 山下潤志
 福家省造 藤本元美
 (会計監査…古野恵美子 墨川廣徳)
 (相談役…委員)

★「支部会員」とは関西支部に所属する委員、会員、会友をさします。

★2012年12月より、事務局が山下潤志方に移転
 (藤本元美・福家省造 記)

福井一陽会

FUKUI

- 活動状況
- 福井一陽会役員会
3月27日・4月25日 グランドホテル わだつみ
5月30日 福井県教育センター
12月4日 フジタホテル福井 チャイナテーブル
- 福井一陽会総会 4月17日 福井県教育センター
- 作品研究会 6月4日・8月6日
福井県立美術館 研修棟
- 福井一陽会展 7月14日～7月18日
福井県立美術館 (7月17日 合評会)
- 個展 等
- 永岡 章 水彩・アクリル展 3月2日～7日
福井市美術館
- 清水正男洋画展 4月1日～30日
ギャラリーサライ
- 松原照代個展 7月1日～31日
ギャラリーサライ
- 佐川文子個展 9月1日～30日
ギャラリーサライ
- 公募展
- 日本美術家会員展
(3月8日～13日 金沢二十一世紀美術館)

出品 佐川文子、清水正男

- 第3回鯖江市美展
(2月26日～3月6日 鸚陽会館)
運営委員・無鑑査出品 宮川正市
審査員・審査員出品 佐川文子
FBC賞 山岸敏美
- 鯖江市企画展 春爛漫リレー展
(4月26日～3月6日 まなべ館)
出品 宮川正市
- 第24回市美展ふくい
(5月20日～29日 福井市美術館)
〔絵画造形部門〕
審査員・無鑑査出品 佐川文子、清水正男
無鑑査出品 内藤 汎、畑 透仁
市長賞 永岡 章
福井市教育委員会賞 西藤節子
福井市文化協会会長賞 坪田美代子
日刊県民福井賞 坂井和子
奨励賞 郡谷美穂子、竹内光一
松原 照代、村上禮子
一般入選 石田 孝子、白崎榮子
孫崎 公子、松井優子
渡辺 妙子

- 北国街道アート展 出品
(9月1日～9月30日 鯖江商店街) 宮川正市
- 福井市民文化祭 出品
(11月2日～3日 フェニックスプラザ)
佐川文子、清水正男、宮川正市
- 福井市文化奨励賞 受賞
(11月3日 福井県立美術館) 清水正男
- 福井県市町村文化協選抜美術展 出品
(11月19日～23日 福井市美術館)
佐川文子、清水正男
- 第62回福井県総合美術展
(10月22日～30日 福井県立美術館)
〔絵画造形部門〕
審査員・無鑑査出品 岩永勝彦、佐川文子
審査員特別賞 清水正男、西藤節子
福井新聞社賞 内藤 汎
福井エフエム放送賞 谷口恵子
一般入選 石田孝子、郡谷美穂子、
坂井和子、島田くみ子、白崎榮子、竹内光一、
坪田美代子、中西美恵子、武鑑恭子、牧田聖代、
孫崎公子、増澤恵美子、松原照代、松井優子、
宮川正市、村田宏人、山岸敏美、横山純子、
渡辺妙子
- 第61回福井県勤労者美術展

- (9月29日～10月2日 福井県立美術館)
〔絵画造形部門〕
招待出品 内藤 汎
福井県勤労者福祉基金協合理事長賞 孫崎 公子
県民生協福井協同組合理事長賞 坪田美代子
奨励賞 村上禮子

- グループ展
- 10人展 (11月25日～12月25日 台湾 (台中)
ギャラリー桜)
北嶋三智子、児玉常聖、小林和子、増澤恵美子、
三谷滋子、森山秀樹
- 第9回グループ彩展 (水彩画)
(4月1日～4日 福井県立美術館)
佐川文子、松井優子
- 第29回究展
(4月6日～10日 福井県立美術館) 佐川文子
- 第19回グループS展
(4月6日～10日 福井県立美術館)
佐川文子、白崎榮子、内藤 汎、竹内光一、
中西美恵子、松井優子、松原照代、孫崎公子、
村上禮子、渡辺妙子
- Pinoと森の仲間たち展
(6月27日～7月2日 福井県立美術館) 松原照代
- 第51回記念べんべん会展
(8月3日～7日 福井県立美術館)
佐川文子、石田孝子、松原照代、横山純子
- 第5回スプリングアート展
(9月16日～19日 福井県立美術館)
佐川文子、石田孝子、群谷美穂子、坂井和子、
白崎榮子、谷口恵子、竹内光一、坪田美代子、
中西美恵子、西藤節子、松井優子、宮川正市、
村上禮子、渡辺妙子
- 第47回福井造形展
(9月16日～19日 福井県立美術館)
佐川文子、北嶋三智子、清水正男、石田孝子、
児玉常聖、小林和子、坪田美代子、武鑑恭子、
牧田聖代、増澤恵美子、松井優子、横山純子、
渡辺妙子
- Quartetto洋画4人展
(10月13日～16日 福井県立美術館)
佐川文子 (賛助出品)、群谷美穂子、坂井和子、
谷口恵子、西藤節子 (佐川文子 記)

石川支部

ISHIKAWA

■活動報告

- 総会 4月17日 金沢都ホテル
- 一陽会石川支部研究会展 8月20日
白山市民工房うるわし 本部より森秀雄代表を招
聘し、作品講評会・懇親会を開催。
- 作品研究会 3月13日 インプレス
- 作品研究会 7月31日 インプレス
- 一陽会反省会 12月4日 ホテル金沢
- 一陽会石川支部2012新春展 1月24日～29日
金沢21世紀美術館
- 個展
- 飯田恭彦洋画展 3月16日～23日
津幡町文化会館シグナス
- 岡田 博洋画展 4月1日～28日
北陸銀行津幡支店ロビー
- 竹中外喜博油彩画展 6月2日～30日
高松まちかど交流館
- 飯田恭彦洋画展 8月1日～31日
北陸銀行津幡支店ロビー
- 安田 淳個展 ～もうひとつの現実～
2011金沢美大OB 東京・銀座
一金沢一 N.Y.大展覽会
9月 銀座・シロタ画廊
- 大嶽英治 (彫刻・レリーフ) 展
11月5日～13日
金沢湯涌温泉旅館「銭がめ」
- アートフェア
- Artexpo New York 2011
第30回「日本美術の輸出」展 3月 安田 淳
- 公募展
- 第67回現代美術展 4月2日～19日
石川県立美術館
理事・審査員出品 大場吉美
評議員・審査員出品 野中未知子
評議員出品 安田 淳
会員出品 浮田正樹、柴山桂子、白井正浩
竹田明男、中本邦夫、西山恭申
野村秀久
次 賞 岡田博、益田恭行
北國賞 大嶽英治、阿部正子、田方 勇
佳作賞 川村甚子
入 選 和泉 洸、中野久賀子、飯田恭彦、
奥田暉子、金田千佳、小島信子、
小西明人、芝西広美、山崎綾乃、
尾山隆夫、城戸清子、高田 勇、
竹中外喜博、中谷美和子、平辰辰洋、
松井三枝子、山田裕一

- 第26回北國女流美術展 11月1日～6日
金沢21世紀美術館
審査員無監査出品 柴山桂子
無監査出品 中野久賀子、野中未知子
次賞 阿部正子
北國賞 奥田暉子、小西明人
入選 山崎綾乃、松井三枝子
- 七尾市美術展覧会 11月3日～6日
石川県立七尾美術館
委嘱・審査員出品 野中未知子
優秀賞 岡田 博
佳作 中谷美和子
- 志賀町を描く美術展 11月9日～13日
石川県立美術館
入選 竹中外喜博
- 第61回勤労者美術展 11月17日～20日
金沢勤労者プラザ
審査員 浮田正樹
- 第15回国際公募日仏現代作家美術展
11月 大森ベルポート
委員出品 安田 淳
- 日本芸術センター第5回絵画公募展
12月 神戸芸術センター
入選 安田 淳
- グループ展
- 和の造形セッション2011
京都展 3月1日～6日 法然院南書院
岡山展 3月12日～21日
手打ちうどん ころも
大嶽英治、浜谷信彦
- 第2回はてなし会展 3月1日～6日
京都府立文化芸術会館 中谷美和子
- 第1回からたち美術展 3月8日～13日
金沢21世紀美術館 中野久賀子
- 第3回日本美術家連盟会員展
一石川 富山 福井一
3月 金沢21世紀美術館 安田 淳
- 能美市絵画協会展 5月21日～29日
根上学習センター 和泉 洗、阿部正子、
奥田暉子、小西明人、山崎綾乃、田方 勇
- 2011CAF.N金沢展 5月 金沢21世紀美術館
安田 淳
- 白山会第7回南加賀造形美術展
6月10日～14日
小松市民ギャラリールフレ
和泉 洗、安田 淳、小西明人、益田恭行、
山崎綾乃

- 能美市美術作家協会絵画部展 6月16日～26日
辰口町博物館ギャラリー
和泉 洗、阿部正子、小西明人、山崎綾乃、
田方 勇
- 第31回根上書道・絵画合同展 6月18日～26日
根上学習センター
和泉 洗、阿部正子、奥田暉子、山崎綾乃
- 古九谷修古祭現代陶芸展 6月 浜谷信彦
- 第21回津幡美術友好会展（小品展同時開催）
7月5日～10日 津幡町文化会館シグナス
浮田正樹、飯田恭彦、岡田 博、上田雅則、
高田 勇、竹中外喜博、川村甚子、松井三枝子、
平林辰洋、山田裕一
- 社会を明るくする運動有名作家チャリティー作品
展 7月6日～11日 めいてつエムザ
浮田正樹、和泉 洗、柴山桂子
- 第30回野々市町美術展 7月8日～18日
野々市町役場カメラホール椿
竹田明男、西山恭申、尾山隆夫
- 第7回能美市作家協会展 7月9日～18日
根上学習センター
和泉 洗、阿部正子、小西明人、山崎綾乃、
田方 勇
- 七尾美術作家協会展 7月16日～18日
石川県七尾美術館 浮田正樹、野中未知子
- 辰口温泉ゆけむり芸術祭 8月2日～21日
松崎旅館・たがわ龍泉閣
阿部正子、小西明人、田方 勇
- 根上絵画クラブ作品展 9月1日～6日
ギャラリーいずみ
和泉 洗、阿部正子、山崎綾乃
- 2011金沢美大OB
東京・銀座一金沢-N.Y.大展覧会
樺の仲間4人展 9月5日～11日
銀座幸伸ギャラリー 野中未知子
- 2011金沢美大OB
東京・銀座一金沢-N.Y.大展覧会
「wart展」東京 9月6日～18日
銀座・アートホール 大場吉美、安田 淳
- 2011金沢美大OB
東京・銀座一金沢-N.Y.大展覧会
Pennelli展 9月12日～18日
銀座・月光荘 画室2 白井正浩
- 2011金沢美大OB
東京・銀座一金沢-N.Y.大展覧会
「wart展」金沢 9月13日～25日
金沢21世紀美術館 大場吉美、安田 淳

- 第51回小松美術展 9月
小松市民ギャラリールフレ 安田 淳
- アトリエ郭公と仲間たち 郭公の集展
10月6日～17日 野村秀久
- 地区文化祭 10月22日～23日
井上コミュニティプラザ 川村甚子
- かほく市文化祭 10月29日～30日
河北台健民体育館 竹中外喜博
- 第54回津幡町文化展覧会 11月1日～3日
津幡町文化会館シグナス
飯田恭彦、岡田 博、上田雅則、川村甚子、
平林辰洋
- インスタレーション4人展 11月2日～13日
石川国際交流サロン 大場吉美
- 能美市文化祭 11月3日～6日
能美市寺井地区公民館
和泉 洗、阿部正子、奥田暉子、小西明人、
田方 勇
- 第34回野々市町美術文化協会展
11月4日～13日
野々市町役場カメラホール椿
竹田明男、西山恭申、尾山隆夫
- 第7回津幡美術作家協会展 11月9日～13日
津幡町文化会館シグナス
浮田正樹、飯田恭彦、岡田 博、上田雅則、
高田 勇、川村甚子、竹中外喜博、平林辰洋
- 秋の大作展 11月15日～20日
ギャラリー新神田 柴山桂子
- 能美市絵画大作展 11月25日～12月4日
能美市学習センター
和泉 洗、小西明人、山崎綾乃、田方 勇
- 第51回歳末美術展 11月26日～30日
香林坊大和 大場吉美、浮田正樹、柴山桂子、
白井正浩、竹田明男、中野久賀子、中本邦夫、
西山恭申、野中未知子、安田 淳、阿部正子、
飯田恭彦、岡田 博
- 2011CAFネビュラ展 11月
埼玉県立美術館 安田 淳
- 第17回七尾美術作家協会歳末チャリティー展
12月2日～3日 フォーラム七尾
浮田正樹、野中未知子
- ゆかいな仲間展 12月7日～26日
ギャラリースイートK
和泉 洗、奥田暉子、小西明人
- 歳末助け合い入札展 12月9日～11日
寺井地区公民館 阿部正子
- 第48回歳末美術展 12月

- 小松芸術劇場うらら 安田 淳
- かほく市絵画愛好会グループ展
2月26日～3月11日 うみつこらんど七塚
竹中外喜博
- 根上絵画クラブ新春展 2月4日～14日
根上総合文化会館アートギャラリー
和泉 洗、奥田暉子、山崎綾乃
(白井正浩 記)

富山一陽会
TOYAMA

- 2011年2月
- 富山市美術作家連合展
萩中幸雄・松村直樹・榊田律子・古田恵子
富山市民プラザアトリウム
- 3月
- 東日本大震災チャリティー展 古田恵子
北日本新聞社本社ギャラリー
- 飛騨高山現代木版画ビエンナーレ 狭間潤子
高山市民文化会館
- 砺波市美術協会展 山本文郎
砺波市美術館
- 庄川美術展きらら展 武田清子
庄川美術館
- 4月
- 富山一陽会春季展
富山一陽会・全員参加
- なないろ流星展 榊田律子
富山県民会館
- 婦中町サークル展 荒井哲夫
婦中町ふれあい館
- 洋画in2011庄川展 萩中幸雄・山本文郎
庄川美術館
- 北陸銀行ロビー展 菊 昌隆
富山市丸の内支店
- 5月
- 伏黒由利子展 伏黒由利子
富山県民会館ギャラリーB
- 滑川美術協会展 笹山満義
滑川市博物館
- 6月
- となみ野美術展 山本文郎
砺波市美術館
- 富山県美術展 萩中幸雄（実行委員長）
近代美術館（会員出品）
（奨励賞） 伏黒由利子・古田恵子
（入選） 松村直樹・永澤一美・荒井哲夫・

- 武田清子・曾我千秋・菊 昌隆・
高橋久仁子・富岡博子・姫路広司・
池田国男・梶原信男
- 富山県民会館
- 富山駅地下市民ギャラリー展 藤木良一
富山駅地下市民ギャラリー
 - 東秩父版画フォーラム 永澤一美
(埼玉県芸術祭実行委員会会長賞)
秩父和紙の里
- 7月
- 富山県洋画連盟新川地区会員展 笹山満義
入善町民会館(コスモホール)
 - 滑川洋画連盟展 笹山満義
滑川市博物館
 - 北陸銀行OB展 菊 昌隆
アートギャラリー栄
- 8月
- 富山市洋画家連盟小品展 萩中幸雄・榊田律子・古田恵子
富山県民会館ギャラリー
 - 富山一陽会夏季展 富山一陽会・全員参加
富山市民プラザアートギャラリー
 - 上市町美術展 (町展賞) 池田国男
北アルプス文化センター
- 9月
- 北東アジア国際平和美術展 萩中幸雄
中国・瀋陽市
 - 第57回一陽展 萩中幸雄(委員)・山本文郎(会員)
榊田律子(会友)・笹山満義(会友)
松村直樹(会友)・狭間潤子(会友)
丸山敦子(会友)・永澤一美(会友)
武田清子・曾我千秋・菊 昌隆・姫路広司
高橋久仁子・根建カズヨ・富岡博子
池田国男・藤木良一
(会友推挙) 古田恵子・伏黒由利子
(奨励賞) 荒井哲夫・(賞候補) 武田清子
国立新美術館
 - 富山ねんりん展 菊 昌隆・池田国男
富山県民会館
 - 北陸銀行ロビー展 菊 昌隆
呉羽支店
 - 富山県生活文化展 萩中幸雄
高岡文化ホール
 - 野萩の会作品展 萩中幸雄・菊 昌隆・姫路広司

- 根建カズヨ・藤木良一
ギャラリーエルフ富山
- 洋画連盟砺波地区会員展 山本文郎
北日本新聞社砺波ギャラリー
 - 第49回氷見市展 永澤一美
(氷見商工会議所会頭賞)
(招待) 狭間潤子
氷見市民会館
 - 版画2010 in 庄川 狭間潤子・永澤一美
 - 富山市洋画家連盟小品展 萩中幸雄・古田恵子・松村直樹
グリーンビュー立山
 - 射水市展 梶原信男
高岡波文化ホール
- 10月
- 富山市展 (入選) 菊 昌隆・富岡博子・姫路広司
(招待) 萩中幸雄・松村直樹・榊田律子
古田恵子
富山県民会館美術館
 - 北陸中日美術展 (入選) 伏黒由利子
金沢21世紀美術館
 - 上市美術会展 池田国男
西田美術館
 - 滑川市展 笹山満義
滑川市博物館
 - ねいの会作品展 荒井哲夫
婦中町ふれあい館
 - 砺波市展 山本文郎
砺波市美術館
 - 第52回日本版画会展 永澤一美
埼玉会館
 - 庄川を描く風景画展 永澤一美
庄川美術館
 - 善意銀行色紙頒布会 山本文郎・松村直樹
県民会館ギャラリー
- 11月
- 氷見版画同好会展 狭間潤子・永澤一美
ちいさな美術館
 - アミカル展 萩中幸雄
アートサロンコスモ
 - 第60回富山県芸術祭 美術連合展 萩中幸雄・山本文郎・松村直樹・笹山満義
榊田律子・丸山敦子・永澤一美
富山県民会館
 - 小矢部市善意銀行色紙頒布会 萩中幸雄・山本文郎

- 小矢部市総合保険福祉センター
- 2011越中アートフェスタ (佳作) 古田恵子 (入選) 荒井哲夫
永澤一美・丸山敦子・梶原信男・藤木良一
- 12月
- 市民大学文化祭 萩中幸雄・菊 昌隆・根建カズヨ
藤木良一
 - 砺波善意銀行色紙頒布会 山本文郎
チューリップ四季彩館
 - 教育文芸富山表紙絵 山本文郎
教育文芸富山
 - 富山市企画 萩中幸雄作品展 萩中幸雄
富山松川べりギャラリー
- 2012年1月～2月
- 富山市美術作家連合会展 萩中幸雄・松村直樹・榊田律子・古田恵子
富山市民プラザ・国際会議場
(萩中幸雄、松村直樹 記)

長野支部
NAGANO

- 支部活動
- 総会 3月5日 ホテル ニューステーション
(松本市)
 - 第44回 一陽会長野展 6月29日～7月3日
・伊那市 長野県伊那文化会館
招待作家2名2点
・絵画37名37点 彫刻2名2点
・故 鈴木武樹会員遺作展1点
※6月29日作品展修了後 小島 鐵男委員、渡部
貢委員を講師に作品研究会を実施
 - 第57回一陽展 奨励賞 中山直子、丸山うた子、吉池仁美(絵)
青麦賞 松下良徳(彫)
会友推挙 高橋優、武田準二(絵)、松下良徳(彫)
- 作品発表
- 革新的潮流展 小林一夫 上海 2月
 - 垣内カツアキ 近作展 伊那アルプス美術館 3月～
 - 丸田恭子、小林一夫展 長野市表参道 7月
 - 飯縄高原ギャラリー園遊展 小島金三 7月
 - 中山直子 82ギャラリープラザ長野 9月
 - 小林一夫展 佐久穂町 10月
 - 小島金三洋画展 画廊カンヴァス城山(長野) 10月
 - 垣内カツアキ油彩画展 辰野町 10月

- 「北信濃作家・現在」展 アートミュージアムまど
碓田順彦 10月
- 小島kinsan・松川勝男展 画廊カンヴァス城山(長野) 11月
(田中 渉記)

中部支部
CHUBU

- 2011年2月～2012年1月 111
センター6F
- 支部活動
- 中部展打合わせ会 3月5日 名古屋市芸術センター6F
 - 第48回中部一陽展 4月27日～5月1日
名古屋市博物館(絵画69点・彫刻4点)
受賞者(絵画)(彫刻該当者なし)
中部一陽賞 片野泰人
中日賞 加藤孝仁
東海TV放送賞 鈴木啓子
奨励賞 岡本勇夫、岩田悠子、志知佳子、
服部秀勝、山田晃平
新人賞 大橋壯久
 - 夏期総会 7月23日 名古屋市芸術センター
 - 第12回陽友会展 10月25日～30日
名古屋市民ギャラリー8F 30名
野田美子、五木田あさ子、橋爪玲、高森和子
常川雅子、木村満幸、片野泰人、加藤孝仁
鈴木啓子、山本晃平、高橋昭子、志知佳子
岡本勇夫、服部秀勝 他4名
 - 秋のスケッチ会 10月16日 マリーナ蒲郡
久保田正剛、河井一郎、小畑恭子、野田美子、
常川雅子、鈴木啓子、山田晃平、片野泰人、
岡本勇夫、小田勝、志知佳子
 - 岐阜一陽展 2012年1月11日～15日
岐阜県美術館
彫刻・今井田一己、田口哲也、森島昭道
絵画・久保田正剛、河井一郎、小畑恭子、
西脇義照、野田美子、高森和子、
木村満幸、加藤孝仁、山田晃平、
常川雅子、志知佳子 他4名
 - 新年総会 2012年1月28日 囲み屋(名古屋)
- 個人活動(G→ギャラリーの略)
- ◇2010年12月
- 第4回8人の女流画家展 ノリタケの森
加藤美千代
- ◇2011年1月
- グループYOU友 Gるぼ(一宮)
野田美子、高森和子、木村満幸

- 萌土社 岐阜県美術館 河井一郎
- ◇2月
- みんなでやらまいかりアート展
イーステージ(浜松) 神崎元志
- ◇3月
- 第64回水彩協会展 愛知県美術館
宿沢浩、加藤孝仁
- 第8回加藤美千代個展 ノリタケの森(名古屋)
- 第17回コスモアート トヨタ画廊(名古屋)
若杉美智子
- ◇4月
- 第64回春州会展 愛知県美術館 中嶋美瑛子
- 第18回六陽展 名古屋市博物館 宿沢 浩
- 双鶴展 G双鶴 下保隆義
- ◇5月
- 芸術展(絵画部門)尾張旭市文化会館
加藤美千代、岩田悠子
- 第29回さつき会 Gるほ(一宮) 野田美子
- 第4回浜松美術協会 クリエート浜松
神崎元志
- 文協展 蒲郡市博物館
小田 勝、伊藤裕一、片野泰人、岡本勇夫、
鈴木啓子
- 第53回大垣美術家協会展 大垣文化会館
久保田正剛、西脇義照
- ◇6月
- 第5回一宮新総合美術展 一宮文化センター
高森和子、木村満幸
- マイ・アート 由美画廊(浜松) 下保隆義
- ◇7月
- ドゥヌ・アールパートⅡ展(前期)金工堂(名古屋)
宿沢 浩、中嶋美瑛子
- 第25回マイ・アート展 由美画廊(浜松)
神崎元志
- 中津川市美術家協会展 五木田あさ子
- ◇8月
- ドゥヌ・アールパートⅡ展(後期)金工堂
宿沢 浩、中嶋美瑛子
- ◇9月
- 一宮美術作家協会展 一宮市博物館
高森和子、木村満幸
- 浜松アートルネッサンス 浜松中区商店街
神崎元志
- 西濃美術展 大垣文化会館
久保田正剛、西脇義照
- 森心会 荻須記念美術館(稲沢)
愛知県会議長賞 服部秀勝

- ◇10月
 - 第64回瀬戸市美術展(公募)瀬戸市文化センター
(無鑑)片野泰人 (入)山田晃平
 - 第64回岐阜市美術展 岐阜市文化センター
(審)今井田一己 (■)河井一郎
 - 第43回羽島市美術展 羽島市文化センター
(審)今井田一己 (■)小畑恭子
 - 第8回芸術の連鎖祭り 池田町 今井田一己
 - 第9回クロッキー素描展 桜ヶ丘ミュージアム
岡本勇夫、高橋昭子
 - ◇11月
 - 第69回一宮市美術展 一宮文化センター
(依)高森和子
 - 市民展 蒲郡市博物館
小田 勝、片野泰人、岡本勇夫、鈴木啓子
 - 春州会秋季展 セントラルG 中嶋美瑛子
 - ◇12月
 - 第12回源流展 岐阜県美術館 小畑恭子
 - 第69回現代作家美術秀選展 一宮市博物館
(依)高森和子
 - チャリティ
 - 朝日新聞社(名古屋)丸栄 中嶋美瑛子
 - 岐阜新聞社(東日本大震災復興支援)色紙展
岐阜マーサ21 久保田正剛、河井一郎
 - 西濃チャリティ色紙展 イオン大垣
久保田正剛、河井一郎
 - 第18回0号展 G聚 宿沢 浩、中嶋美瑛子
 - ◇2012年1月
 - 8人の女流画家展 ノリタケの森 加藤美千代
 - 第65回水彩協会 愛知県美術館
宿沢 浩(審)加藤孝仁
 - 第57回一陽展
受賞者 会員賞 小畑恭子(岐阜)
会友賞 南部 聡(三重)
(久保田正剛、中嶋美瑛子 記)
- 神奈川県支部**
KANAGAWA
- 支部活動(2011年4月~2012年3月)
 - 研修会 7月24日
かながわ県民センター
一陽展に向けての作品講習会(出席者19名)
一般出品者、会友の作品の下見、講評を行った。
 - 第57回一陽展受賞者初入選者等
一陽賞 小松啓子
特待賞 菅原礼子
奨励賞 秋松範子、小林英明(版)

- 小野知香(彫)
会員賞 平野昭子
会友推荐 岡本敏枝、多田彰一(版)
小野知香(彫)
初入選者 青山孟郎、緒方かおる
- 神奈川支部懇親新年会 1月23日
ホテル・オークラ 桃源(そごう横浜店)
- 個人・グループ活動他
- 第9回蒼の会展 4月4日~9日
銀座井上画廊
岩山義彦、磨井静子、内山靖子、唐崎 妙、
小松啓子、菅原礼子、高瀬和夫、千坂 健、
茶畑顕子、平野昭子、伏見伸彌、三原路子
- 横浜開港アンデバンダン展 5月7日~15日
Bank.Art.Studio.NYK 杉村哲子
- 横須賀康子展 5月23日~28日
光画廊(銀座) 横須賀康子
- ハマ展あざみ野会員会友展 5月9日~15日
横浜市民ギャラリーあざみ野 村杉哲子
- 第65回女流画家協会展 5月20日~6月2日
上野の森美術館 塩川慧子
- 第29回茅ヶ崎美術家協会展
6月21日~7月16日 茅ヶ崎市美術館
横須賀康子、内山靖子、磯部順子
- 第9回 四季彩 9月15日~21日
アートスペース イワブチ 村杉哲子
- 第57回野外彫刻造形展 10月15日~23日
厚木防災の丘公園 斎藤貴子
- 厚木地下道ロードギャラリー
11月16日~12月21日 斎藤貴子
- 横浜市金沢区美術展 11月19日~23日
能見台地区センター 村杉哲子
- 第67回ハマ展 11月21日~27日
横浜市民ギャラリー 村杉哲子
- 衛守和佳子展(彫刻) 11月26日~12月6日
啓祐堂ギャラリー(高輪台) 衛守和佳子
- 第4回 華展 12月5日~15日
ギャラリーセイコードウ(銀座)
横須賀靖子、内山靖子
- 富岳展 1月11日~2月6日
お堀端画廊(小田原) 神部修成
- 西相美術協会春季展 1月11日~17日
青木画廊(小田原) 神部修成
- 新春小品展 1月16日~22日
画廊楽(横浜) 村杉哲子
- [予定]
- 研修会 7月8日(日)

- 第58回一陽展出品作品の下見会
かながわ県民センター 14時~18時
- 第65回女流画家協会展 6月29日~7月6日
上野 東京都美術館 塩川慧子
- 34展 6月12日~17日
町田市民ホールギャラリー 斎藤貴子
- 神部修成小品展 6月
新横浜プリンスホテル内アートギャラリー
神部修成
- アートギャラリー企画展 8月
軽井沢プリンスホテル 神部修成
- 訃報
会員 芦沢弘子 65歳 10月15日
ご冥福をお祈りいたします。
(岩山義彦 記)

千葉支部

- CHIBA**
- 支部活動(2011年1月~12月)
 - 幹事会・総会・新年会 1月30日
蘇我・勤労市民プラザ
 - 千葉一陽会会友展 会友(23名)3月10日
画廊ジュライ
 - 準備会(第34回千葉一陽展について)3月13日
勤労市民プラザ
 - 「葉展」委員・会員(地震の為中止)3月14日
日本橋小津ギャラリー
 - 第34回千葉一陽展 6月14日
千葉県立美術館
 - 第34回千葉一陽展 研修会 6月18日
千葉県立美術館
 - 第34回千葉一陽展 授賞式・懇親会 6月18日
ホテルグリーンタワー千葉
 - 第34回千葉一陽展 ギャラリートーク
6月19日 千葉県立美術館
 - 幹事会 11月18日 蘇我・勤労市民プラザ
 - 個展
 - 福田利明展 3月4日 ギャラリー「陸」
 - 細川 尚 油彩&素描展 5月30日
銀座 光画廊
 - 川口文子ガラス絵展 9月7日
ホテルサンクチュアリー
 - 岡村順一個展 11月8日 ギャラリー金巴里
 - グループ展
 - アトリエ マリーエ 1月25日
ギャラリー金巴里 畑野昭子会員主宰
 - 三浦哲彦・岡田彌生二人展 2月3日

- ギャラリー樹 岡田彌生会員
- ユニグラバス展 2月7日
ギャラリーユニグラバス銀座館 鹿又保子会員
- 第20回記念彩の會展 2月9日
木更津イオン・グリーンホール 細川尚委員主宰
- DU NORD展 2月28日
銀座 井上画廊 本間くみ会員
- 第34回しづ美術サークル展 3月1日
佐倉市白井公民館 鈴木利久会員
- 第64回佐倉美術協会展 6月8日
佐倉市立美術館 鈴木利久会員
- みなづき展 6月14日
ギャラリー金巴里 細川 尚委員主宰
- 野田美術会第16回小品展 6月18日
興風会館 鹿又保子会員
- 千葉市美術協会特別展秀作2011 6月21日
千葉市美術館 古賀敦子会員
- アトリエ香焼展 7月12日
ギャラリー金巴里 香焼直美会友主宰
- 日本ガラス絵協会展 7月12日
銀座 一枚の絵ギャラリー
石川三知代会員、古賀敦子会員、川口文子会友、加納勝子会友
- 第4回しづ美術サークル夏の小品展 7月19日
佐倉市白井公民館 鈴木利久会員
- ante展 7月18日
Salon de G 大北節子会員、大久保綾子会員
- 彩趣会展 9月20日
野田市櫛のホール 鹿又保子会員主宰
- 2011年佐倉市民文化祭美術展 9月28日
佐倉市立美術館 鈴木利久会員
- 私の愛するアーティスト展Ⅳ 10月1日
ギャラリー風 古賀敦子会員
- 第17回ルタン選抜展 10月17日
画廊ルタン 河野緋紗子会員、永井富貴子会友
- 金巴里さんちの美術展 11月1日
ギャラリー金巴里 小沼由理子会友主宰
- 第19回楽画会展 11月6日
高知市COMOSALON 鈴木利久会員
- ガラス絵コクリコ会展 11月7日
銀座 井上画廊 石川三知代会員主宰
- 第20回究美会展 11月8日
千葉市美術館市民ギャラリー 細川 尚委員主宰
- 錦秋展 11月10日
ギャラリーK 鹿又保子会員
- 2011年志津公民館祭展 11月21日
佐倉市西志津ふれあいセンター 鈴木利久会員

- 第8回同門会展 11月22日
千葉市美術館市民ギャラリー 平賀正勝委員主宰
- 第35回野田美術会展 11月30日
さわやか県民プラザ 鹿又保子会員
- 第4回華展 12月5日
銀座 ギャラリーセイゴウドウ
大久保綾子会員、香焼直美会友
- 第4回更級美術展 12月7日
サンプラザ市原 小嶋英子会員、坂井幸子会員
- Vol.3 スペース45°展 12月24日
画廊ジュライ 福田利明会員
- コンクールその他
- 第29回新春佐倉美術展 1月4日
佐倉市立美術館 鈴木利久会員
- 第24回日本の自然を描く展 7月20日
上野の森美術館 鈴木利久会員
- 第42回 千葉市展 3月6日
千葉市立美術館
奨励賞 酒井弘子会友
会員推挙 河野緋紗子会員、中村竹子会友
- 猫ねこ展 4月20日
松山庭園美術館
・私の好きな作品準大賞
・審査員特別賞 山本映子会友
- 第63回 千葉県展 10月29日
千葉県立美術館
千葉市長賞 里地芳美同人
会員推挙 宍倉綾子会友
- 第34回 千葉一陽展 受賞者
千葉一陽賞 渡辺とし子
千葉県立美術館長賞 里地芳美
千葉会友賞 荒川幸知子、井上峰子
同人賞 岩田明美、楠 裕子、香焼直美、宍倉綾子
同人努力賞 岸川正志、原 弘
同人奨励賞 櫻田セツ
新人賞 佐々木英子、吉田静江
佳作賞 平下真弓、若月 弘
奨励賞 會本芳江、竹之内佳子
薬萌賞 池田伊都子、石川 香、加瀬恭子、吉田真理子
同人推挙 岸本清子、早瀬淳男、細野美佳、前田博子
準同人推挙 石川 香、石川充男、會本芳江、加瀬恭子、清宮みさ子、武岡政代、竹之内佳子、丹羽 恵、吉田真理子
- 第57回 一陽展 受賞者・初入選者

- 会員賞 山口陽子
特待賞 渡辺とし子
奨励賞 岩田明美、佐々木英子、里地芳美、若月 弘
会員推挙 荒川幸知子
会友推挙 楠 裕子、黒澤智子、香焼直美、宍倉綾子
初入選 井上 郁、佐々木英子、平下真弓、吉田静江、若月 弘
千葉支部からの入選者 24名
千葉支部会員の異動
新会員（1名）荒川幸知子
新会友（4名）楠 裕子、黒澤智子、香焼直美、宍倉綾子
新同人（3名）佐々木英子、吉田静江、若月 弘
新準同人（7名）石川 香、石川充男、會本芳江、武岡政代、竹之内佳子、丹羽 恵、吉田真理子
(棚倉英雄 記)

茨城一陽会

- IBARAGI
- 第29回現代具象展 (14名) 3月22日～27日
北沢 努、田邊光則 大黒屋ギャラリー (銀座5)
- 第29回上野の森美術館大賞展
4月26日～5月8日
雨谷達夫 上野の森美術館 (上野公園)
- 第9回茨城一陽展一対峙するときを重ねてー
5月3日～8日 茨城県つくば美術館(つくば市)
(絵画) 山中宣明 (招待)
雨谷達夫、宇留野信章、小川恭子、館野 弘、田邊光則、山口 功
(彫刻) 鳥山 豊 (招待)
磯山芳男、飯田政子、海老根美奈子、小宅淑子、北沢 努、小坂和美、酒井恒太、佐川末礼、櫻井芳高、篠原 洋、鈴木しのぶ、中村義孝、馬場絢女、深谷直之、村山悦子、六崎敏光、森山元國、谷津喜美代、吉田直樹
- 第39回MITO彫刻展 (7名) 6月24日～29日
小宅淑子、篠原 洋、六崎敏光、森山元國
アートセンタータキタ (水戸市)
- ギャラリーしえる企画
中村義孝彫刻作品展
7月26日～8月7日 (水戸市)
- 深谷直之石彫展
大地の循環 ホルン・メサ・クレーター

- 8月22日～27日 ギャラリーせいほう (銀座8)
- 第24回UBEピエンナーレ現代日本彫刻展
9月24日～11月13日
北沢 努 宇部マテリアルズ賞
ときわミュージアム彫刻野外展示場 (山口県宇部市)
- 茨城県美術展覧会 10月8日～23日
雨谷達夫、宇留野信章、館野 弘、磯山芳男、海老根美奈子、小宅淑子、篠原 洋、中村義孝、村山悦子、六崎敏光、森山元國
茨城県近代美術館 (水戸市)
- 第40回SABO展 (5名) 11月4日～9日
海老根美奈子 アートセンタータキタ (水戸市)
- 北沢 努 具象彫刻展～金属と木を素材に～
11月23日～29日 ギャラリー手鞠子 (水戸市)
- YEAR-END EXHIBITION OF MINI・SCULPTURES (116名) 12月5日～22日
中村義孝 ギャラリーせいほう (銀座8)
- 第21回ちよつと小さな展覧会 (111名)
12月14日～30日
六崎敏光 ギャラリーサザ (ひたちなか市)
- 第37回新春チャリティー展 1月2日～3日
主宰茨城新聞社 水戸京成百貨店 (水戸市)
宇留野信章、小宅淑子、北沢 努、六崎敏光
- 第19回 土なかま彫塑展 (11名)
1月15日～21日
北沢 努、村山悦子、谷津喜美代
東海ステーションギャラリー (東海村)
- 第7回現代茨城作家美術展 (100名)
1月21日～2月12日
宇留野信章、館野 弘、中村義孝、六崎敏光
茨城県近代美術館 (水戸市)
(六崎敏光 記)

新潟一陽会

- NIIGATA
- 第10回記念
日本美術家連盟信越地区新潟・長野会員2011
新潟・長野会員2011 6月30日～7月5日
新潟県民会館3F ギャラリーB
市橋哲夫、木村保夫、桑原收、長谷川清晴、山本安雄、北村五十一、高橋洋子
[長野会員] やまぐちかずお
JAAに右ならいで新潟版の新潟県美術家連盟 (芸展)、各地区の美術協会 (協会展)。それに新聞社やギャラリー企画も多い。この様な状況の中から各人の制作方向、比重が浮かび上げればと……。

【佐渡地区】

- ◇市橋輝之
- 二人展 8月1日～10日
シューズショップワダとなり両津
- ◇石塚ホヅエ
- 個展 12月3日～11日
夢ハウス佐渡泉（金井地区）
- ◇北村五十一
- 個展（新作35点）2月
佐渡アミューズメント展示ホール

【新潟地区】

- ◇高橋洋子
- 新潟の抽象作家展 1月 新潟美術学園
- 版画spring 3人展 4月
カールベックス古民家ギャラリー
- ART WAVE in新潟東京展1 5月
銀座ギャラリーるたん
- 銅版画6人展（画廊選抜）8月
銀座ギャルリー志門
- 銅版画会展（13人）10月 県民会館市民ホール
- ◇高山久子
- 版画二人展 2月 デッキイギャラリー新潟
- ◇吉岡 真
- 銅版画会展 10月 県民会館市民ホール
- ◇市橋哲夫
- 新潟の抽象作家15人の眼展part 3
1月2日～8日 新潟美術学園ギャラリー
- グループWAVE展part 1 5月30日～6月4日
画廊るたん 東京・銀座
- 変貌する作家たち展 10月3日～8日
ギャルリー志門 東京・銀座
- 新潟の抽象作家15人の目展part 4
2012年1月31日～2月12日
新潟美術学園ギャラリー
- 個展—銅版画・アクリル・水彩—
2012年1月31日～2月12日 ギャラリーあらか
- ◇鈴木 力
- ガラス絵展 1月 羊画廊 新潟
- それぞれの風景 4月～5月10日 羊画廊
- 個展 12月8日～13日 羊画廊
- 雪梁舎風の会展 6月28日～7月27日
雪梁舎美術館
初日、出品者にピアンキ先生の丁寧な指導があります（元フィレンツェ美術アカデミ教授）
- 新潟の画家たち 12月23日～2012年2月19日
新潟県立万代島美術館
- ◇長谷川清晴

●雪梁舎風の会展 6月28日～7月27日

- 雪梁舎美術館
- 【長岡地区】
- ◇木村保夫
- 評論と観る美術展 4月20日～27日
神奈川県民会館
- 長岡市民写生大会展 6月9日～12日
市民センター
- アトリエ30 会員展 7月10日～24日
ギャラリー創
- 第6回戦争と平和展 8月19日～25日
長岡美術センター
- 長岡美術協会展 9月8日～14日
長岡美術センター
- 【南魚沼地区】
- ◇桑原 収
- 個展—螺旋の軌跡— 1月1日～26日
ギャラリー宮本 長岡
- 第44回南魚美術展 9月8日～11日
デスポーツ南魚沼
- 第32回南魚美術協会展 10月8日～10日
勤労者体育センター
- ◇山本安雄
- 個展—田園・風— 7月2日～28日
ギャラリー宮本 五日町
- 八海山夢展 7月30日～8月30日 池田美術館
- 南魚美術展 9月8日～11日
六日町デスポーツ
- 南魚美術協会展 10月8日～10日 塩沢体育館
- 六日町美協展 10月22日・23日 市民会館
(鈴木 力 記)

高知一陽会

KOCHI

- 2011年3月～2012年2月の活動状況
- 活動の経過
 - 6月20日（月）勉強会
 - 6月21日（火）～26日（日）
一陽会高知'11展
高知市文化プラザ市民ギャラリー（高知市）
 - 活動の総括
 - グループ展（一陽会高知'11展）
23回日のグループ展。高知一陽会メンバー6名が、秋の本展出品予定作品も含め各2点あるいは3点を持ち寄り、陳列展示した。
 - 勉強会

上記グループ展陳列終了後、展示会場において委員、会員を中心に運営された。十分な時間の中で各出品作品について率直な指摘と意見の交換が行われ、その成果は本展出品者の入選及び寺尾立子一般出品者の会友推挙として現れた。

■個人的活動

- 第31回高知県女流展 3月12日～21日
大黒郁代〔審査員〕 高知県立美術館（高知市）
- 第9回“グループ彩”作品展 4月19日～24日
大黒郁代
高知市文化プラザ市民ギャラリー（高知市）
- 第40回オールドパワー展 9月15日～20日
大黒郁代〔審査員〕 高知県立美術館（高知市）
- 第65回高知県展 10月8日～24日
安藤義孝（入選）、大黒郁代（無鑑査）、佐竹 茂（入選）、末田光一（無鑑査）、平田慎一（推薦）
高知県立美術館（高知市）
- 安藤義孝展 12月1日～12月7日
安藤義孝〔個展〕 アトリエ倫加（高知県香美市）
(末田光一 記)

青森一陽会

AOMORI

- 4月
- 中嶋 強個展（弘前市ひまわり画廊）
弘前と青森間の駅舎を描いた作品を展示
- 北画会展（五所川原市） 土岐千佳子が出展
- 5月
- クロッキー研究会（青森市）
出席者 奥田君子、対馬玲子、対馬久世喜
- 女流画家協会展（上野の森美術館）
対馬玲子が出展
- 6月
- 青森一陽会打合わせ会（青森市）
- 芦野公園スケッチ（五所川原市金木町）
太宰治の銅像見学を兼ねて
参加者 笹森真紀子、対馬玲子、対馬久世喜
- 作品研究会（青森市奥田君子アトリエにて）
- 7月
- 第33回青森一陽展（青森市民美術展示館）
会員全員大作を出展。盛会で高い評価を受けた
- 8月
- 第58回青森美術会平和展（青森市民美術展示館）
笹森真紀子、対馬玲子、対馬久世喜が出展
- 裸婦研究会（弘前文化センター）
出席者 対馬玲子、対馬久世喜

- 9月
- クロッキー研究会（青森市）
出席者 笹森真紀子、北川三千枝、対馬久世喜、対馬玲子
- 10月
- 青森美術会フォルム研究会（青森市民センター）
出席者 北川三千枝、奥田君子、対馬玲子、対馬久世喜
- クロッキー展（青森市五拾壱番館）
対馬玲子、北川三千枝、奥田君子、対馬久世喜が出展
- 色紙チャリティー展（社会福祉協議会）
対馬久世喜、対馬玲子が出展
- 第23回青森一陽会小品展（青森市五拾壱番館）
会員の作品（10号以下）30点展示
- 第41回教美展（青森市民美術展示館）
中嶋 強、逢坂清悦、笹森真紀子、土岐千佳子、新戸部一弘、対馬久世喜が出展
- 11月
- 八甲田 酸ヶ湯写生会
参加者 対馬玲子、対馬久世喜
- 12月～1月
- 中嶋強個展（弘前市 クレアシオン画廊）
○毎週土曜日デッサン会が行なわれ、会員が随時参加している。
(対馬久世喜 記)

秋田一陽会

AKITA

- 第54回秋田美術作家協会展
2010年11月11日～16日 秋田県立美術館
榎江里子、小玉律子、仙北谷征子、菅野 操、渡辺喜久蔵、公藤入選 彩画堂賞 高橋章子
- 第36回秋田県秀作美術展 3月10日～3日
秋田県立美術館
榎江里子、小玉律子、渡辺喜久蔵
- 晁展 4月8日～12日 秋田市アトリオン
榎江里子、菅野 操、小玉律子、仙北谷征子
- 2011一陽会秋田展 4月28日～5月2日
秋田県立美術館
※130号を主とした27点を展示「秋田県内でA級の展覧会」の評を得た
五十嵐優子、石川恭子、榎江里子、小玉律子、菅野 操、仙北谷征子、渡辺喜久蔵
- 第11回港洋画人展 5月25日～6月9日
秋田市北部市民サービスセンター展示ホール
石川恭子

- 石川恭子教室「グループ展」 6月9日～12日
秋田市アトリオン 石川恭子
- AKITA ART JUNGLE 2011 11月5日～9日
秋田市アトリオン 榎江里子
- 第55回秋田美術作家協会展 11月16日～21日
榎江里子、菅野 操、小玉律子、渡辺喜久蔵、
公蔡入選 奨励賞 高橋章子
(渡辺喜久蔵 記)

福島グループ
FUKUSHIMA

- 一陽会会員 国井トミ子絵画展
2011年7月20日～25日
会津若松市民ギャラリー
- 一陽会会友 幕田今日子絵画展
2010年10月19日～10月24日
梁川美術館市民ギャラリー
(結城俊彌 記)

福岡グループ
FUKUOKA

- 絵画グループ作品展
市民センター開場30周年記念
2011年11月5日～6日
- 第4回「碧の風」絵画作品展F100号出展
豊津「みどりの館」にて
2011年11月8日～27日
- 17th日本の美術(全国選抜作家展)
サムホール・ハイビスカス 上野の森美術館
2012年2月23日～26日
(前田 睦 記)

岡山グループ
OKAYAMA

- 2011年活動状況
- 第49回関西一陽会(大阪市立美術館)
2011年3月
藤原加奈子 関西一陽賞受賞
石原夕起子 大阪市長賞受賞
妹尾佑介 奨励賞受賞
今浦 稔 ホルペイン賞受賞
- 第1回個展 2011年6月(岡山市アートガーデン)
今浦 稔
- 第62回岡山県美術展(岡山県立美術館)
2011年9月
泉谷淑夫 審査員出品
前嶋英樹 委嘱出品
妹尾佑介 山陽新聞社賞受賞
伊丹 脩 岡山市長賞受賞
- 第57回一陽展(国立新美術館) 2011年9月

- 孫 鵬 会友推挙
- 第23回しんわ美術展(アルネ津山展示ホール)
2011年10月
妹尾佑介 銀賞受賞
- 第2回陽のあたる岡展(岡山市アートガーデン)
2011年12月
泉谷淑夫、前嶋英樹、瀬島茂紀、日向啓江、
伊丹 脩、藤原加奈子、孫 鵬、石原夕起子、
瀧浦光樹、妹尾佑介、今浦 稔、皆見昌信 出品
(泉谷淑夫 記)

三重グループ
MIE

- 三重一陽会活動
- 「三重一陽会」活動について 2011年5月1日
(会場 ル・ブルミエアムール)
- 第59回一陽展受賞者
南部 聡 会友賞
- 個人・グループの活動
- 第14回ウヅジ国際小版画トリエンナーレ
(ポーランド) 6月 土嶋敏男
- 2011アックイ賞国際版画ビエンナーレ
(イタリア) 6月 土嶋敏男
- 第57回CWAJ現代版画展
(新・東京アメリカンクラブ) 10月 土嶋敏男
- 「三重県高等学校美術工芸教員作品展」
2012年1月5日～7日 三井昭典
- 「北西地区三重県高等学校教員作品展」
2012年1月17日～22日 南部 聡
(土嶋敏男 記)

山梨グループ
YAMANASHI

- 2011年グループ活動内容
- 5月
- 峡北美術会展 山梨県立美術館
市村四方子、吉田光雄
- 7月
- 山梨美術協会展 山梨県立美術館
三井正人、中沢明子
- 10月
- 山梨県民文化祭 山梨県立美術館
三井正人、吉田光雄
(吉田光雄 記)
- 企画展、コンクール展等の情報をお待ちしております。
(次回原稿締め切り=2013年1月末日)
〒262-0013 千葉県千葉市花見川区猿橋(こてはし)
町62-41 TEL&FAX 043-286-5236
山田久子まで

彫刻部研修会報告

彫刻部 委員 神山 茂樹

彫刻部研修会が昨年12月10日(土)六本木の居酒屋で行われた。講師、会員伊藤正人氏の提案により会員以上が課題(書物の一節・恩師の言葉・逸話・座右の銘等)に応じて各自の文章を前もって提出した。当日の発表は講師のみとし、その他は冊子としてまとめ参加者に配布された。

伊藤講師は、千利休が秀吉をもてなすため庭の朝顔を取り払い一輪の朝顔のみを生け、「凝集の美」を演出した逸話をあげ、このことで自分の美的感覚の方向性は決定づけられた。「凝集の美」とは一輪の花を生かすために、咲き誇る数千万の花を捨てたのとは全く意味が違い、一輪の中に、咲き誇る数千万の命が生きると言うことだ。そして、自分にとっての制作、石との対話は表面的な素材感ではなく、命を精神で感じ理解するものであり、造形の中にすべてを凝縮し創り出す新しい美的な存在でありたいと思うとまとめられた。

当日の提出者は17名であったが、中でも私達が映像や史・資料でしか知り得ない時代を生きて、その空気を感ずて来られた会員、内田 英氏の体験談はプリント15枚にわたる。その一部を紹介したい。

◎恩師の言葉から抜粋

戦中、敗戦、混乱期の中で、6人の教授に接した5年間の学生生活である。(上野の東京美術学校、現・東京藝術大学)入学後、一ヶ月あまりで戦時教育大改革があり、彫刻・石井鶴三、平橋田中。絵画・梅原龍三郎、安井曾太郎、前田青邨、安田朝彦、奥村土牛と当時一流の超大家在が新任、感動したものである。

◆石井鶴三 奈良仏像から萩原藤山までの彫刻談義、茶の湯のお点前日本精神訓話、粘土を持たされた記憶はない。勤労動員後、京都、奈良研修旅行、法隆寺では金堂壁画模写中を石井さんの顔で特別拝観。始めて見る蛍光灯(当時我が国では潜水艦と法隆寺にしか使われていなかった山)その明るさに驚嘆。壁画の素晴らしさに千年変わらぬ色彩の鮮やかさは今も眼にやきついている。その後壁画焼失。

◆高岡徳太郎(一陽会創立会員) 30才で先生の知遇を得、彫刻からデザイナーに転向。商業施設の内装、展示設計、造形部門の担当責任者として30年間企業のお世話になり、関西弁での美術談義、ビジネス、あきないの心得まで、いろいろとご指導いただいたことは私にとって唯一の先生であり、人生の恩師であるとも思う。※その他、朝倉文夫、北村西望、佐藤朝山、山本豊一、菊地一男、柳原義達、舟越保武、土屋武から、舞台美術の吉田兼吉(一陽会彫刻部創立会員 植木 力先生の親友)、役者の芥川比呂志、美術家の定宿と親しまれた奈良日吉館の名物おかみまで登場する。

◎雑感から抜粋

学業半ばでの学徒出陣。休学届けの後、死出の旅の思い出にと夜行列車を乗り継ぎ、倉敷大原美術館へ。帰途、日の丸の旗に見送られ京都駅から乗車した青年が手紙を千々に破り、琵琶湖の水面に散らし涙する光景は、初めて見た西洋美術の殿堂の感激と共に忘れられない二十歳の青春である。当時、西洋美術館が国内にたった一つとは現代では考えられない。再び彫刻をはじめ、60才で一陽展に初出品の

おり、高岡先生は非常に喜ばれての一言「彫刻部の面倒をようみてやれや」
今から思えば先生の遺言であった様な気がする。今、私達は師の言葉を自分の言葉に変えて「かたち」を刻み追求している楽しい仲間達ではなかろうか。
※戦時中、散戦復学の思い出、それらを踏まえての後進への提言等、どれもが機知と謙謙に富み、実際に読んでほしいというのが私の、そして彫刻部の実感である。



上海アートフェアに 出品して

一陽会代表 森 秀雄

一陽会のスタッフから「上海の個展」と称して寄稿して欲しいと云われた。

本当の所、困ってしまった。「個展」はしていない。

「上海アートフェア」に依頼されたので作品を出品したのである。

「上海アートフェア」は世界の三大アートフェアだと聞いている。

「個展」と「アートフェア」では根底から異なり、あくまで「アートフェア」はビジネスの世界である。

個人では出品することが出来ない。選別されたギャラリーが世界に通じるプロの作家か否か判断した上で、作家に依頼を申し込むのである。

ブース（部屋）代、運送費、人件費等、ギャラリー側の負担は大きい、それを見越して作家に依頼するのである。

今回の「上海アートフェア」はギャラリー、出品作家に対し、より質の向上の為、厳しい選別をしたとも聞いている。

作家側も勿論ギャラリーを選ぶ権利がある。

「上海アートフェア」を終えて日本に帰ると、「個展」と「アートフェア」を混同している人達が多いので、この機

会を得て「個展」との違いを述べさせてもらった。

今回で嬉しいことがあった。

一陽会の図録過去3年分3冊を上海アートフェアの関係者たちに見せた

所、皆実に真剣に図録を見ていたが、3人の作家の作品を非常に興味があると云ってくれた。

一陽会の中、イヤ、日本の評価とはかなり違うものだ。

それぞれ特性をもって描いている人だ。

これがフランス、アメリカと所が変われば又評価も変わるかも知れないと思いがちであるが、世界の評価はそう変わるものではない。



世界は広い、ハードルも高い、しかしそこには色々なチャンスや可能性があると思われ、作家自身の目を世界に向けて欲しいと思う。



3年前にパリに旅行した時、パリに永く住んでいる友達の間から個展をしたらどうかと勧められました。初めてのことで不安でしたが、興味もあり

ました。

その友達の助けを借りて、2011年5月に2週間個展を開くことになりました。会場は日仏天理会館内のベルタンボワレです。

セーヌ川に架かる橋、ボンヌフに近く、ルーブル美術館、対岸にはノートルダム大聖堂があり、この季節が1年でもっとも美しいそうです。会期が決まってから制作にかかりました。

自分が感じた今を表現する事が大事だと思い心がけました。

毎日の制作が楽しく新鮮に感じました。作品は23点です。作品を空輸する際の梱包や手続など慣れないことで一苦勞でした。

初日のオープニングは賑やかに迎えることができました。皆さんにとっても熱心に見て頂き、話を聞くことができました。芸術を見守るやさしい気持ち、美の感性の高さに感心しました。日本から来られた方からも励まされ、感激しました。

パリの個展

絵画部運営委員 高岡 徹

会場でフランスの女流画家を紹介されました。モンマルトルにお住いで、そのアトリエは昔ロートレックが住んでいた建物であると聞き、びっくりしました。

アトリエを見せて頂けると云うので後日心弾ませ訪ねました。入口を入り、木の階段を上がるとアトリエの天井は高く、大きな窓は天井まであり、明るい光線がさし込んでこじんまりとしたとても雰囲気のあるアトリエでした。ユトリロ・ピカソが出てきそうです。これがパリなんだと思いました。

100年前のアトリエを今も大事に使っていることに感心しました。気がつくと店のショウウィンドウ、レストランと街にはいたる所に古き良きものが大切に伝えられ、日常の生活の暮らしの中に生きていて楽しんでいます。

美術館でも古い時代の作品の展覧会が開催されて、日本では見ることのない作品が展示されているのは羨ましい限りです。

パリの滞在時間は瞬間に過ぎましたが、この機会に芸術の深さ、面白さを知ることができたことは大きな収穫でした。これからの人生を楽しむことに頑張るつもりです。

